

金光学園

# やっなみ

2021. 12





# 高校体育会

# 中学体育会



# 部活動紹介

## 文芸部

今夏に5名の高3生徒が引退し、高1部員がただ1人細々と創作を続けている。それが文芸部の置かれた偽らざる状況である。まさに存立自体が風前の灯火といった体たらくであるが、実のところその歴史は決して浅くはない。小体育館2階に人知れず存在する、静寂に包まれた部室に残された、「ほたび」創刊号の奥付には昭和37年10月25日発行と記されている。



近年では、散文の執筆を中心に据えて活動を行ってきた。ほつま祭で販売する「櫓柵火」を、鼻息の荒い部員に半ば無理やり押しつけられた結果、我らの大切な読者となってくださった方々も多いのではないだろうか。毎月テーマを決めて物語を紡ぎ、自作を含めた全員の作品に対して評価用紙を書いたうえで、半日から丸一日を費やす批評会に臨む。そこで得た仲間や顧問の助言を参考に幾度も推敲を重ねる。時には合宿を行ったり、コンクール出品のための小説を書き綴ったりもする。そういった日々の営みを著語めようとして、「一冊の「櫓柵火」を編んでいる。

校内では、なかなか日の目を見ることのない文芸部が、県下ではそれなりに名を馳せる強豪校であることにも言及しておきたい。二〇一四年に「高校生文芸道場」というコンクールに初めて挑戦して以来、今年も含めて4回中国大会に勝ち進み、そのすべてで入賞を果たした。部員が少なく出品自体が叶わなかった年が2回あることに鑑みれば、ますますの成果だろう。

文芸部でひたむきに筆を執り、物語作者として確かな実力を養った。歴代の部員たちは口を揃えてそう言うに違いない。とはいえ、目下の悩みは現役を書き手不足である。こればかりは如何ともしがたい。小説を書きたい、文芸に携わりたいと考える生徒が1人でも多く現れてくれることを切に願う。

## 剣道部

剣道部は金光学園開校初期から存在する、歴史と伝統のある部活動である。現在、中・高合わせて5人の部員が在籍しており、ほつま体育館1階にある剣道場にて日々練習を重ねている。剣道部が目指すものは試合の勝敗のみではない。勝つことだけを指すのではなく、正々堂々と試合に参加し、自分の納得できる技を出すことを目標にしている。6年間の学園生活の中で継続して練習し続け、正道を歩める人間になるために武道に対する正しい理解と技術、さらには自律心と自信を養っている。中・高で試合数は異なるが年間通して試合は多く、地区・県大会などの公式試合以外にも剣道連盟主催大会等にも参加している。武道に属する様々な競技にはそれぞれ多くの技術が存在するが、剣道の試合において有効打突とされる部分は面・胴・小手・喉の4種類のみである（中学生の喉への突きは禁止技にあたる）。中でも全ての基本である「面打ち」。ただ技を繰り出すだけでは相手に当てることはできない。相手の出方、氣勢、機会、間合いをすべて読み切った先にある勝敗を決する「一本」を実現するために練習をくり返すのである。武道の「武」とは矛（ほこ）を止めること、「道」とは信念を持つ



て貫き通すことを意味している。つまるところ、力による争いだけを選ぶのではなく、皆が同じ方向を向いて共に歩むための手段を学ぶことだと我々は理解している。高潔な精神をもつて先人の培った技術を習得することは苦難を伴うものである。それでも貫き通した先にある、自分が納得できる「一本」を目指して日々精進を続けていきたい。

## コロナ禍の中で、びぎるいびき

初村 和彦

2年前より始まった新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちの学校での活動や学びが制限される日々が続いています。校長先生をはじめとされる諸先生方には、子どもたちのために今できることを最大限に考え、行動して下さっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

新型コロナウイルスの影響で、学校行事や部活動が中止や縮小をやむなくされており、本来できるはずだった保護者同士のつながりをつくることも難しい現状があります。そんな中、昨年やつなみ保護者会の役員に声をかけていただき、本年度より活動させて頂くようになりました。

役員の集まりもなかなか開催できない今、ほつま祭の準備や友愛セールで販売する金光ベアやミニチュア制服など、数多くの手作り作品を熱心に楽しそうに下さっている保護者の方々のおかげで、本来あるべき保護者会活動や保護者の繋がりを初めて感じることが出来ました。

まだまだ新型コロナウイルスの収束には程遠い今、保護者の繋がりができる何か良い方法はないかと日々考えさせられています。やつなみ保護者会の役員として残された期間の中で何ができるか、これからも積極的に取り組んでいきたいと思えます。子どもたちは、人生における貴重な時間を金光学園で過ごさせてもらいます。保護者の皆様、コロナウイルスの影響もありますが、子どものために引きつづき、やつなみ保護者会の活動への御協力を宜しくお願いします。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

## 目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 巻頭言                     | 1  |
| 金光学園創立127年記念式           | 2  |
| 道(30)                   | 10 |
| メタセコイヤ                  | 24 |
| 活躍おめでとう                 | 24 |
| 学園生の故郷                  | 26 |
| 活躍する卒業生                 | 28 |
| やつなみ保護者会のページ            | 32 |
| 中2広島平和研修                | 34 |
| 中2KiBi Autumn Adventure | 38 |
| 中学体育会                   | 40 |
| 生徒入賞作品                  | 44 |
| 会報                      | 46 |
| 生徒会活動                   | 47 |
| 学園だより                   | 55 |
| 教室の窓から                  | 58 |
| 編集後記                    | 58 |

# 金光学園創立127年記念式



金光学園創立127年記念式が、11月12日、厳かに挙行された。新型コロナウイルス感染症の影響下であったため、朝9時、校長と全クラスの代表生徒各2名が本部広前に参拝し、高3平松正巨君、中3藤井梨緒さんが、教主金光様にお礼のお届けをした。

今年度の祭事、式典は120記念館大講義室で実施し、その模様を各HR教室にオンラインで中継した。10時に代表の生徒および教職員が集合し、祭事が始まった。まず、感謝祭が行われ、学校法人金光学園理事長の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。

式典では、国歌静聴の後、25年動続の田中誠教諭、長谷川亜矢教諭が表彰を受けた。続いて校長式辞、生徒代表の所願表明と続き、金光学園歌静聴で締めくくられた。

休憩の後、10時55分から井上全悠氏（東京2020パラリンピック卓球競技日本代表）より、「金光学園と歩んだ東京パラリンピックへの道」と題した記念講演をいただいた。学



園で過ごした中学・高校時代の思い出、パラリンピックの試合会場や選手村での体験などを交えつつ、夢を叶えるために歩んだ軌跡について熱く語ってくださいました。講演の後半では、放送部の生徒がインタビュアーを務める質疑応答を行い、後輩である運動部の生徒から募った多数の質問にもお答えいただいた。生徒は終礼の後に下校し、12時30分にはつま体育館で全教職員の記念写真を撮影した。

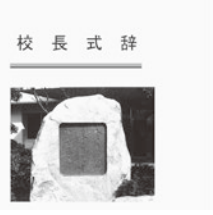
## 式辞

校長 金光 道晴

※スライドを使つての式辞だったので、スライドを映すタイミングを示すため、シナリオのような形になっています。太字の説明が写真を出したタイミングでした。

## 正門の合言葉の石碑

おはようございます。127年の記念式は、学校の誕生日をお祝いする日であり、誠にありがとうございます。



金光学園は、金光を母体に創立された学校ですから、例年なら式典に先立ち全校生徒と私達教職員がそろつて金光教本部にお参りし、ここまでの御礼と、ここからお願いの参拝をさせて頂き、その後体育館で式典と卒業生などによる記念講演を行うのであります。

現在コロナ感染は減少し、落ち着いてきていますが、今年も昨年に続き、各クラス2名の代表者だけの参拝となり、記念式も皆さんは教室において、このようにオンラインでの式となりました。

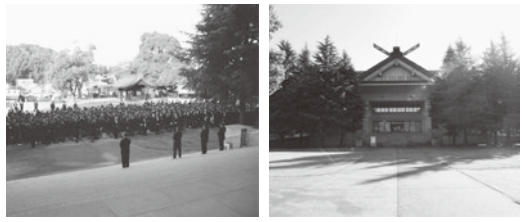
私は、毎年この創立記念式の式辞では、学園の歴史や学園にゆかりのある方や卒業生のことを取り上げてお話をしていますが、この度はオンラインとなったので、写真などを使つて、記念式での参拝の様子や、学園創立当初の歴史や、金光教の建物などについてお話させて頂こうと思います。

## 金光教の本部広前会堂

最初は、今朝各クラスの代表の生徒が参拝をした建物で、金光教本部広前会堂です。境内地の正面（東）の建物ですが、金光教の神様や教祖様や御霊様が祭られており、参拝者は通常この会堂の中に入つて参拝します。

## 境内に集合した時の写真

この写真は2年前の創立記念式当日に会堂前の境内



地に集合した時の様子ですが、学園の全校生徒と全教職員1000名を超える人数が会堂の中に入つて参拝するのは大変です。境内地での参拝している時の様子

創立記念式の時、このように全校生徒が中には入らず、会堂前の境内で参拝をします。境内から木綿崎山に上がる階段を上っている写真

そして参拝後、

木綿崎山に登つて、歴代教主の奥城（お墓）や初代校長の頌徳碑を巡拝します。中学生は教祖奥城という教祖様のお墓の方から登つて参拝します。

## 会堂の広前 昨年の参拝時の写真

これは、昨年の参拝時の様子ですが、代表生徒だけの参拝でしたから、会堂の



中に入って、このように間隔をあけて配置された椅子に座って参拝をしました。



### 会堂神前正面からの写真

会堂の正面の神前には金光教の神様である「天地金乃神」様と教祖である「生神金光大神」様が祀られており、神前には「天地書附」が奉斎されておられ、今日の参拝でもこの「天地書附」を唱えさせていただきます。神前の左側の霊前には御霊様が祀られています。



### 御結界でのお届の写真

神前の右手には御結界という場所があり、参拝



者はこの写真のように教主金光様に、神様に取り次いでいただく御礼やお願いのお届けをします。

### 御結界でのお届の写真

このお届の様子は一昨年のもですが、今日は高3の平松正巨君と中3の藤井梨緒さんが代表でここまでの「御礼」とこれからの「お願い」のお届けをしました。（お届の内容は9頁）。それに対し教主金光様から「本日はおめでとうございませう。ここまでのお届を申し上げ、ここからの一層の大みかけこうむられますようお祈り申し上げます」とのお言葉を頂きました。

### 創立当初の正門の写真

さて、これは創立間もないころの正門や校舎の写真です。金光学園の創立は明治27年（1894年）ですが、創立当初は金光教の建物を借りて、僅かな生徒と先生で授業などが始められたのですが、段々に入学者希望者が増え、国に認可された学校として教育を行っていくためには、



校舎が必要であるという事で、金光教の様々な方々の協力や支援を受けて、金光教本部に隣接する場所に校舎が建てられたのであります。

### 創立間もない頃の校舎の一部の写真

これもその当時の校舎の一部です。金光学園は、もともと今のこの占見野にあったのではなく、金光教本部に隣接する木綿崎山の麓に校舎やグラウンドがつくられたのであります。

### 記念講堂の写真

その当時建設された建物で現在唯一残っているのが記念講堂ですが、65年前の昭和31年にあの場所から今の場所に移築されたのであります。この記念講堂は、歴史的・文化的に大変貴重な建物であるということで、国の登録有形文化財に



指定されています。

### 祭場の建物の写真

さて、これは昔、学園のあった場所に、昭和34年（1959）に建てられた祭場です。収容人数は約1万人余りといわれ、中には1本の柱もなく、当時、東洋一と言われた建物であります。金光教の春秋の大祭をはじめ、大きな祭典はここで仕えられますが、4月には中2が、10月には高2の生徒の皆さんが清掃奉仕をしています。



### 祭場での大祭 参拝の写真

この写真はコロシアムによる入場人数の制限がなかった時の祭場での大祭の時の参拝の様子です。毎年高校3年生は秋の生神金光大神大祭という教祖様をお祭りす



る大祭にはそろって参拝していますが、今年も、昨年も参拝制限があったために出来ませんでした。

その松の木の下には、3代校長の内田律爾先生の筆による「金光中学校の跡」と刻まれた石碑があります。

### 今回の大祭参拝の写真

先月の10月に3日にわたって仕えられた大祭には、この写真のように、参拝者の人数制限があったため、高3の生徒の参拝はできませんでした。

### 大王松の写真

中1の皆さんには、私は毎年、境内地南の端にある大王松という松の木のことや、大きな松ぼっくりのことを紹介していますが、その大王松が生えているあたりが、先程紹介した昔学校の正門があった所で、あの大王松はその頃からあの場所に生えているものであります。



### 金光中学校の跡と刻まれた石碑

本部総合庁舎 2階は図書館になっており、金光教の図書館として、また公共の図書館とし



て、誰でも利用できる図書館なので、生徒の皆さんも利用できます。

### 修徳殿の写真

会堂の北隣に木造の建物で、障子で仕切られている修徳殿と言われる建物があります。今の会堂が建設されるまでは、信奉者はここで参拝していました。今は主に信奉者の研修施設として使われています。

### 立教聖場の写真

#### (建物全景)

修徳殿の北にある立教聖場は教祖様の住宅を昭和8(1933)に復元したモニュメントで、

### 立教聖場(室内)



室内は高3が9月の宗教の時間に見た教祖様の映画「おかげは和賀心にあり」のロケで使われた部屋と同じようなつくりになっています。

### 教祖奥城の写真・左から見た写真

この奥城には教祖様の奥様や教祖様の後を受けられた二代の金光様など教祖の子供さん達が祀られています。

### 教祖奥城写真・右から見た写真

この教祖奥城の後ろの広場は神社の境内地でしたが、創立当初そこで運動会が行われていたと伝えられています。

### 歴代教主奥城

そこから南に木綿崎山を登っていくと歴代教主の奥城(お墓)があります。これが歴代教主の奥城で教団墓地ともいわれますが、三代金光



様と言われる摂胤様や四代金光様と言われる鑑太郎様やその家族の方々が祀られています。

### 生徒参拝の様子

歴代教主の奥城も、この写真のように参拝しますが、三代様は校主という今の理事長に当たるお役に就かれたこともあり、四代様は卒業生でも書家でもあったため、その号を碧水といわれ、学園のお茶室の名前にもなっている方です。そのように金光学園にとっても大切な方々が祀られている奥城であります。

### 初代校長佐藤範雄先生頌徳碑

最後に参拝するのが、その歴代教主の奥城から更に南に行ったところに仰ぎ見のように立っているのがこの初代校長佐



藤範雄先生の頌徳碑であります。「佐藤範雄先生頌徳之碑」と刻まれているのが分かると思っています。

これはお墓ではなく、当時、近隣の教育関係の方々が初代校長の功績や徳をほめたたえて残したいという強く厚い願いによって、初代校長が固辞される中で、建てられたものです。石碑だけでも6メートル近くあり、石の台の高さを入れると9メートル近くにもなります。ここを最後の巡拝地として参拝し、学園に帰って記念式を行うのであります。



スライドによる話はこちらまでとしますが、今日の式辞で私が皆さんに最も伝えたいことは、建物や参拝のことではなく、127年もの長き素晴らしい歴史と伝統の金光学園で学ぶ私達が、先人たちの築いてこられた精神やその願いをしっかりと受け継ぎ、学園をさらに発展させていかなければならないということであり、在校している皆さんが有意義な学園生活を

送り、一人一人が輝く事によって学園は一層発展していくと思います。

高校3年生はもう半年もたないうちに卒業しますが、卒業してからも学園の卒業生として、その合言葉の心や、学んできた精神をもとに、真に世のお役に立つ人間として自らを輝かせることこそ、一層学園を輝かせ発展させることにもつながっていくと思います。どうぞ今日の創立記念式を、それぞれのここからの新たな出発とし、共に頑張ってくださいませ。それでは最後に合言葉「人をたいせつに」を申し上げて式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。終わります。

### 所願表明

生徒代表 兒山 恵和

私たちの金光学園は、今年で創立127年を迎えました。金光学園は1894年(明治27年)に「神道金光教会学園所」という名称で始まり、長き激動の時代を歩み、今の私達に受け継がれてきました。私達は、金光学園の伝統と多くの先人達のお働きに感謝し、127年のお年柄をお祝いし



生徒代表 兒山 恵和

たいと思います。さて、金光学園では、建学以来「真に世のお役に立つ人材を育成すること」を願っています。私は、何気なく、言葉だけでその意味を考えることもありませんでしたが、高校2年生の時にそのことを考えるきっかけがありました。では、世のお役に立つ人材とはどのような人材なのでしょう。私が金光学園で経験したことを通して話してみたいと思います。

私は、高校2年生の時、探究学習で「スマイル」に学校を建てた「JustSMILE学校プロジェクト」に参加しました。この活動は、教育環境の整っていないスマイルに学校を建て、子ども達を笑顔にしようというものでした。10月に中間発表会を終え、後半の活動で自分達がミヤ

ンマーの子ども達に何が出来るのかを考  
えました。ミャンマーの文化や歴史を調  
べることによって、多民族国家であるこ  
とや、政治の不安定さなどがあることが  
分かりました。また、このプロジェクト  
に参加するメンバーが現地の方とオンラ  
インで話をするので、幼稚園が建てら  
れるンゴラ村は、寒暖差が激しいことや  
水不足が深刻であること、また、子ども  
達に数字を教えたいということなどを知  
ることが出来ました。そこで私達は、ク  
ラウドファンディングに取り組み、お金  
を集めて幼稚園に通う子ども達にお昼寝  
用のブランケットやサッカーなどで使う  
数字の書かれたピブスを送る計画を立て  
ました。現地の方とコミュニケーション  
をとることで、本当に必要とされている  
物を知ることが出来ました。しかし、実  
際にクラウドファンディングで資金を集  
めることは、とても大変で何度も困難に  
ぶつかることがあります。途中でやめてしま  
おうかとも思いました。そんな時、「ミヤ  
ンマーの子ども達が私達の贈り物を楽し  
みに待っています」という話を現地の方  
から聞き、なんとしても成功させなけれ  
ばならないと改めて決心し、仲間と全力

他人の幸せを願い、自分の幸せも求め、  
また生かされている恩恵を深く、心に感じ  
て生きる。そのような生き方を通して世  
のお役に立つことを求めていくのが金光  
学園の伝統だと思います。

最後になりましたが、金光学園は127年  
の伝統の重みと学園の合言葉である「人  
をたいせつに 自分をたいせつに 物を  
たいせつに」を胸に、一人ひとりが金光  
学園生としての誇りと自覚を持って行動  
することを決意し、金光学園のさらなる  
発展を願って、所願表明といたします。

で取り組みました。

様々な課題を克服し、私達がクラウド  
ファンディングを開始した今年の2月1  
日、その日にミャンマーでは、軍事クー  
デターが発生しました。初めはそれほど  
深刻化しないだろうと安易に考えていま  
した。しかし、状況は日に日に悪化し、  
一般人にも死傷者が出るほどにまでなっ  
ていきました。一方、クラウドファンディ  
ングは、卒業生を中心に一般の方からも  
多くのご支援を受け、目標額を達成する  
ことが出来ました。その後、2ヶ月ほど  
かけて物資を送る体制を整えることが出  
来ましたが、クーデターの影響で安全に  
物資を輸送できる状態ではないため、未  
だ送ることが出来ていません。一日も早  
く届けられるように祈るばかりです。現  
在もミャンマーでは、戦闘が続く、国民  
の命が危機に晒されています。ンゴラ村  
の子ども達は、どのように過ごしている  
のかとその無事を案じています。私は、  
遠くの出来事のように思っていたことが、  
この活動を通してとても身近なことのよ  
うに思えました。

日本も、約80年前、大きな戦争を経験  
しました。本校でも軍事教練が行われる

など、学ぶ機会が奪われました。そして  
戦後のいまだ生活物資にも事欠く昭和23  
年、先人達は自由で平和な社会を作る人  
材を育てる願いを抱き、困難を顧みず、  
ここ占見野への金光学園の新築移転に着  
手されました。私達は、多くの先人達の  
切なる願いと努力があって、今、力一杯  
学ぶことが出来ています。先人達の志を  
つないで、これからの世界平和を築いて  
いく、そのような願いがかけられている  
と言えます。

私は、「JUSTSMILE学校プロジェクト」  
を通して、たとえ人種や宗教、言葉やイ  
デオロギーが違おうとも、相手を認め、  
理解し、尊重し合うことから、様々な問  
題解決の道が見出せるのだと思えるよう  
になりました。つまり、「世のお役に立  
つ人材」とは「様々な違いを認め、理解し、  
尊重し合いながら、問題解決の道を見い  
出していく人材」のことだと考えるよう  
になったのです。そして、金光学園には、  
「人をたいせつに 自分をたいせつに  
物をたいせつに」という合言葉がありま  
す。その言葉の元になった「人の身が大  
事か わが身が大事か 人もわが身もみ  
な人」の言葉に込められた精神。つまり、

## お届け

おはようございます。金光様、日々ご祈念いた  
だき有難うございます。

私たち金光学園中学・高等学校は、今年創立127年  
を迎え、本日創立記念式を挙行させていただきます。

昨年度に続き、今年も全校生徒揃っての参拝は  
出来ず、各クラスの代表生徒の参拝となりました  
が、全生徒を代表して、これまでお世話になった  
すべてのものに感謝し、お礼を申し上げます。

いまだ新型コロナウイルス感染症の影響があり、  
様々な学校行事や部活動の大会・発表会などが中  
止や制限されるなど残念な思いになることが多くあり  
ました。

しかし、金光学園では、出来るだけの取り組みを行い、成果につなげる  
ことができました。そして、本日うるわしく創立記念式を迎えさせていた  
だきましたことに心から御礼を申し上げます。学園生全員がこれからの金  
光学園の発展のために、より一層努力するよう、決意を新たにしている  
ところであります。

特に、高校3年生におきましては、受験を目前に控え、それぞれの願い  
成就のおかけをいただきますよう、また他の学年の生徒も一人ひとりが健  
康で、それぞれの目標を達成することが出来ますよう、どうぞよろしくお  
願い申し上げます。有難うございました。



生徒代表 平松 正亘  
藤井 梨緒

## 創立記念式

## 井上全悠選手の記念講演(東京パラリンピック卓球)

前号の「やつなみ」の「道(29)」で紹介した井上全悠選手が、去る11月12日の創立127年の記念式において「金光学園と歩んだ東京パラリンピックへの道」という演題で生徒対象の記念講演を行いましたので、この度の「道」にその講演の内容を掲載させて頂くことにいたしました。井上選手についての紹介は前号でいたしましたので、今回は省略させていただきます。

これまでやつなみ保護者会総会時の講演は、教養シリーズとして小冊子にして全保護者にお配りしておりましたが、創立記念式の講演を文字にして残すことは行っていませんでした。しかし、今年は昨年に続いてやつなみ保護者会総会自体が新型コロナの影響で開催できずおられませんし、この度の創立記念式での井上選手の話は生徒達にとっても大変素晴らしい話でしたので、私自身も何とか文字にして残したいという思いを持っていました。そのような中で保護者や卒業生や教職員からもその声が上がっていましたので、今回の「やつなみ」の中で紹介することになりました。最初は要約だけでもと考えていましたが、コロナ禍の中で、修学旅行や国際交流ができなかったり、ほつま祭や体育会をはじめ諸行事が中止や縮小されたりする中で、やつなみの紙面にもページ数に余裕

## 金光学園創立127年記念式

## 記念講演「金光学園と歩んだ東京パラリンピックへの道」

高66回卒 井上全悠選手

ただいまご紹介いただきました井上全悠です。今日は「金光学園と歩んだ東京パラリンピックへの道」ということで、みなさんにお話をさせていただきたいと思っています。母校である金光学園で講演をさせていただけるということは非常に嬉しい反面、東京パラリンピックより緊張しているかもしれません。皆さんお聴きいただければと思います。よろしくお願ひします。簡単にですが、自己紹介をしていきたいと思います。私は、1995年8月12日生まれで今26歳になります。金光学園に中学、高校と6年間通い、8年前に卒業しました。大学は岡山市にある山陽学園大学に通い、卒業したのちに、山陽学園大学の事務職員として所属をして、東京パラリンピックを目指して活動してきました。今日は皆さんに私が小さい頃、交通事故に遭って、それから卓球を始め、東京パラリンピックを目指すようになった道のりを、金光学園で経験したことをもとにお話したいと思っています。

生後8ヶ月の時に私は車と車の正面衝突の交通事故に遭って両足に障害が残りました。当時は生きるか死ぬか半分半分ぐらいで、生きていても車椅子が寝たきりと言われていました。しかし元気に回復することができ、小さい頃からリハビリもたくさん行い、歩けるようになりまし。現在は障害が進行して悪くなるということなども特にはなく、両足に障害は残りま

があるとのこと聞き、講演の全部を文字に起こして掲載させて頂いたことになりました。しかし、1つ問題なのは、今回の講演だけでは限りませんが、近年の講演は必ずと言っていいほど、パワーポイントなどで写真や動画などを使って話されるので、文字に起こした場合、その部分が正確に伝わらないという問題が出てきます。が、井上選手の話は動画や写真がなくても十分内容は伝わると思っています。記念式当日の講演はオンラインで行いましたので、保護者の方の中にはリアルタイムでユーチューブ配信をご覧になった方もおられると思いますが、改めて講演の内容を読んでもいただければと存じます。



したが、元気に生活を送るところまで回復しました。それから小学生になります。足に障害があったのですが、とにかく幼い頃から体を動かすのが大好きでした。小学生の頃は友達とサッカーをしたり、野球をしたり、とにかくいろいろなスポーツをして楽しんでいました。しかし、それと同時に体がだんだん大きくなるにつれて、やはり長い距離を走ったり激しい動きをしたりということが難しくなると、友達と差ができてくるなというのを感じていました。

小学校4年生の時に授業のクラブ活動で卓球を初めてやりました。その時は同級生になかなかついていけないと感じている時で、卓球なら一緒に練習をしたり試合をしたり、あの卓球台の大きさならみんなと一緒にできるんじゃないか、これだったらついていけるんじゃないかというのを感じました。そこで卓球の面白さを感じ、工夫すれば、自分でもみんなと一緒にできると思い、中学生になったら卓球部に入り、卓球を部活動としてやろうと決めていました。

中学生になり、金光学園に入学しました。そこで当時からお世話になっていた卓球部顧問の内田雅彦先生に出会い、本格的に競技として卓球を始めようになりました。1年生の時は、私の記憶では基礎的な練習を本当に沢山してきて、それが今に繋がっているように感じています。そして中学2年生の時にパラ卓球と出会いました。これも顧問の内田先生の勧めで、障害がある人が出られる大会があるというのを教えていただき、そこでパラ卓球に挑戦することにしました。中学2年生の時に9月に東京で開催された、アジアユースパラゲームズという大会





海外遠征に出場するようになりまし  
た。この写真は、  
高校2年生の時に  
出場した韓国オー  
プンとフランスオー  
プンの写真です。  
新聞の記事は当  
時、金光学園で韓  
国オープンの前に  
練習をしている風  
景です。そして隣  
のフランスオープ  
ンの写真は団体戦  
で銅メダルを獲得  
した時のものです。  
この年は2012  
年で、ロンドンで  
パラリンピックが

ンスがあった中、思うような結果を残すことができず、非常に悔しい思いをしました。そのため、次の年は何としても優勝を目指してこうという目標を立て、かなり練習に打ち込んだ記憶があります。その結果、全日本選手権で優勝することができ、日本一になることができました。

高校2年生になり、日本代表ナショナルチームに選出され、

です。14歳から19歳のアジアの選手が出場し、アジアチャンピオンを決めます。私は初めての国際大会であり、バラの大会も初めての出場でした。それと同時に金光学園での卓球部の活動も行っています。中学校では備南西地区の大会に出場し、上位に入り、個人戦、団体戦ともに県大会にも出場、個人戦では中学2年生の秋の大会でベスト16まで勝ち上がったことを覚えて  
います。スライドの写真は、当時のアジアユースパラゲームズの時の写真になります。初めて新聞に掲載していただき、金光学園の小体育館で撮影した写真です。結果は団体戦で金メダル、個人戦で2つの銅メダルを獲得し、ここから私のパラ卓球への道が始まって行きました。

ここで皆さんに少しパラ卓球とはどういうものなのか知って

いたきたいと思います。基本的に健常者、オリンピック、パラリンピック関係なく卓球はほぼ同じルールで行われます。私は卓球のすごく良いところだと思っていて、スポーツによってはどうしても障害の関係でルールを変えていかなければいけないところもあります。しかし、卓球は障害のあるなしに関係なく、みんなが楽しめるというところが良いところだと感じています。私のように立ってプレーする選手は全くルールが一緒となっており、車椅子についてのみサブがサイドラインを切ったらやり直すという特別なルールがあります。そして最大の特徴である障害の程度によってクラス分けというのが行われて、そのクラス分けされた同じクラスの選手と対戦することになります。クラス分けですが、大きく車椅子と立位に5つずつ分かれて  
います。そして知的障害のクラスが11となっており、全部でパ

ラリンピックは11のクラスで行われます。車椅子は1から5になっており、立位は6から10になっています。数字が小さい方が障害が重度、大きい方が障害が軽度というようになっています。私はクラス7になるので、どちらかという  
と障害が重たいクラスになっています。基本的に国際大会も国内の大会も全てこのクラス分けによって試合をするよう  
になっています。

中学3年生の時は個人戦、

団体戦ともに2年生の時と同じく県大会に出場し、最後の大会では県で2位になり、中

国大会にも出場したことをよく覚えています。また、金光学園の良いところとして、中高一貫のため、6学年にわたって関わりを持てるということで、中学生の頃から、高校生の先輩と練習をさせてもらったことは自分の成長に繋がったと感じています。

スライドの写真は、高校1年生の時の写真になります。パラ卓球の全日本選手権に当たる大会で優勝し、日本一になった時のものです。高校1年生で初めて日本一になることができました。当時、1年前の中学3年生の時に全日本選手権で上位に入るチャ

開催された年でもあります。私はそのロンドンのパラリンピックの映像を見て、自分もいつかこの舞台に立ってみたいと思ひ、パラリンピックを意識してプレーするようにしました。また、金光学園の卓球部としてはキャプテンも務めさせていただきました。パラリンピックを目指しての大会と部活動の大会の両方の活動を行っていました。

高校3年生では1年生に続き、パラ卓球の全日本選手権で優勝することができました。また、高校生の大会としては最後の夏の大会で岡山県ベスト4に入り、中国大会にもキャプテンとしてチームのみんなと出場したことを覚えています。しかし、パラ卓球の試合では結果が出ていないもの、高校の大会ではなかなか個人戦では結果を出すことができず悩んだ時期もありました。その中でも目標を立て、世界へ挑戦するつもりで、葛藤がありながらもチャレンジを続けていきました。また、先ほどの校長先生のお話の中にもありましたが、創立記念式で全校生徒の代表として所願表明をさせていただいたことを大変よく覚えて  
います。

ここで皆さんに、目標を立てるということで、私がこれまで目標を立てて取り組んできた3つの大切にして  
いることをお話したいと思ひます。

まず1つ目は短期目標、長期目標などを作るということです。当時の中学生、高校生のころの私がどれぐらいできたのかわかりませんが、細かく目標を立てて、まずは自分が出場する大会を目標にし、その先の大きな目標としては東京パラリンピックというところを意識して練習をしていました。2つ目に、その





目標を逆算して計画を立てるといふことを大切にしています。いつまでにいつの大会でこういう成績を出したい、いつの大会までにこういう技術ができるようにしたいといふことを自分の中で逆算して計画を立てています。そして3つめに、私が1番大事だと思っていることなのですが、努力して達成できそうなことを目標にするということがすごく大切だと思っています。目標というのは簡単すぎてもよくないです。自分が時間をかけて努力したら、なんとか達成できるんじゃないかというところを目標にしてやるのが次の道につながっていくと思います。また目標というのは、人と比べるものではなく、自分との戦い、自分との約束事だと思うので、人と比べるのではなく、自分にとって必要な目標を立てるといふことが大切だと、これまで挑戦してきました。

私は大学生になり、岡山市にある山陽学園大学に進学しまし

選手は右の腕が肩からありません。そしてラケットを持っている左手も指が3本ほどしかなく、握力がほとんどないとのことで、マジックテープのようなものでラケットを固定してプレーしています。このように様々な障害がありますが、選手それぞれが工夫して自分の1番戦いややすいスタイルを見つけてプレーしています。また、パラ卓球の面白いところは、この動画でも分かると思うのですが、異なる障害の人が同じクラスでプレーをしています。この選手はどちらでもクラス7の選手なので、私と同じクラスになります。片方の選手は足に障害があり、片方の選手は手に障害がありますが、そのような障害が違う選手が同じクラスでプレーするところがパラ卓球の面白いところだと私は感じています。

動画はこれぐらいにして次の話に進みたいと思います。次は社会人になってからの活動になります。大学を卒業後、山陽学園大学の事務職員として所属させてもらい、毎日練習ができる形、競技に専念できる形になり、ほぼプロのような形で毎日練習を続けていました。またその練習は中学生の時からお世話になっていた金光学園に帰ってきて、内田先生にコーチをお願いして、東京パラリンピックを目指すようになりました。

この写真は2018年のインドネシアで開催されたアジアパラ競技大会の時の写真です。シングルスと団体戦で銅メダルを獲得しました。4年に1度の大会のため、4年前の韓国インチョンで開催されたアジアパラ競技大会に続き、2回目の銅メダル獲得となりました。そして2019年には内田先生にコーチとして、国際大会に3度も帯同していただきました。東京パラリ

た。高校生の時までとは違い、自分で練習内容や試合の計画などを立てながら、勉強との両立をして行くようになりました。その中でも、休日には金光学園に戻り、内田先生や卓球部の後輩に練習をしてもらい、国内国際大会に出場してきました。

こちらの写真は、2017年のスロバキアで開催された世界選手権の団体戦の銅メダルの写真になります。大学生の中で1番大きな大会だったと思いますが、そこで銅メダルを獲得できました。また少し遡りますが、2014年に韓国のインチョンで開催されたアジアパラ競技大会ではシングルスで3位に入り、アジア3位になることができました。

また、大学3年生の時には、リオデジャネイロパラリンピックの出場を目指していましたが、惜しくもランキングをあと少し上げることができず、出場はできませんでした。しかし、リオデジャネイロパラリンピックの前の年には12回の海外遠征に出場し、最後まで挑戦を続けていきました。

ここで、これまで私が国際大会に出場してきた中で、印象に残っている中国の選手の試合を少し見て、パラ卓球というのはどういうものなのかを知ってもらいたいと思います。この大会は2017年のアジア選手権の試合ですが、この中国の2人の選手は、今年の夏に開催された東京パラリンピックで銀メダルと銅メダルを獲得した世界のトップの選手です。手前の青いユニフォームの選手は右足がありませんが、杖を使ってプレーするスタイルとなっています。このような足がない選手や腕がない選手は義手や義足をつけることが多いのですが、この選手は杖についてプレーしています。また、奥の赤いユニフォームの



ンピックを目指すにあたり大事になる年なので、国際大会にも多く出場し、ラストスパイトという思いで挑戦を続けてきました。この写真はヨーロッパのスロベニアで開催された大会の写真で、私の知り合いのベンチコーチに内田先生が入っている時の写真です。この大会後、結果を少しずつ残せるようになってきて、2019年の8月には自己最高の世界ランキング13位まで上げることができました。東京パラリンピックの出場枠は私のクラス7では世界で16人になります。世界で16人なので、どれだけ日本一になっけていても、パラリンピックに出場することはできません。そのため、国際大会に出場し続けて世界ランキングを上げる必要がありました。この時、内田先生に海外遠征に何度も帯同していただき、自己最高の13位までランキングを上げることができ、東京パラリンピックの道が近づいていったのです。

しかし、その後思うような結果を出すことができず、世界ランキングを20位まで下げてしまいました。また、新型コロナウイルスの蔓延により、東京パラリンピックの世界ランキングの選考となる最後の大会も中止となってしまいました。そして、

その大会が行われなまま、その時点の世界ランキングで出場者が発表され、私はランキングが20位だったため、選ばれることはありませんでした。その後、パラリンピックが1年後に延期になり、東京パラリンピックの最後の自力での出場権をかけた世界予選トーナメントも1年後に延期になりました。私はそこで優勝したら出場権を獲得できるとのことだったので、そこでの優勝を目指して内田先生と1年間、金光学園の小体育館でとにかく毎日練習しました。

これは、その世界予選トーナメントの時の写真です。しかし、1年越しの世界戦トーナメントでは優勝することができず、ベスト4という形で終わってしまいました。金光学園で内田先生と行った練習は非常に苦しいものもありましたが、この1年間で自分は、大きくレベルアップできたとも感じています。そして自力での出場権を逃してしまい、6月の末に発表される推薦枠を待つのみとなりました。世界予選トーナメントから帰国し、隔離期間中も絶対に自分が出場できるというのを信じて練習やトレーニングをし、いつでも東京パラリンピック本番に備えて練習を続けていました。

そして6月27日の深夜に東京パラリンピック出場が推薦枠で決まったのです。その時の自分の率直な気持ちとしては嬉しいというよりは、ここに出場できることになって良かったという安心の気持ちのほうが強かったように覚えています。東京パラリンピックに出場できる、やっとスタートラインに立てるという気持ちでした。

ここからは実際に私が体験してきた東京パラリンピックの映

選手として本当に嬉しく感じています。

ここからは東京パラリンピックの選手村、試合会場などの写真映像を見てもらいたいと思います。まずは選手村の部屋になります。日本選手団は11号棟という建物で、卓球の選手団は8階でした。同じフロアに、私の場合は4人の選手と共同生活で1人に1部屋あるような形でした。その中の部屋のベッドになります。ニューズなどで見た人もいるかもしれませんが、ダンボールベッドです。実際にはこのような形になっていて、空洞になっています。しかし、しっかりしていて、寝ていてダンボールで寝にくいということを感じたことはありませんでした。

次に食事です。食堂は大きく分けて2つありました。こちら



の食堂は日本食のみを提供している食堂で、朝6時から夜10時まで開いています。またメニューも3〜4日に1回変わり様々な日本食が楽しめるようになっていました。そして、こちらの食堂は24時間開いている大きなダイニングになります。こちらは日本食だけでなく、世界

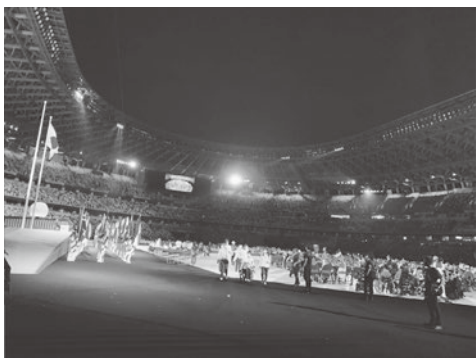
像や写真で、皆さんに東京パラリンピックの雰囲気だったり、選手村など選手にしか見られないところだったりを感じてもらいたいと思います。まず初めに40秒ほどの東京パラリンピックのダイジェストの映像を見てもらいたいと思います。

東京パラリンピックは一言で表すと全てが感動でした。選手村、開会式、試合会場の雰囲気。大会関係者やボランティアなどさまざまな人のサポートがあつて素晴らしい大会でした。私は今まで50回以上の国際大会に出場してきましたが、そこでは感じることでできなかったものを肌で感じる事ができました。その中でも開会式は非常に特別で、緊張と興奮で言葉に表すことのできない感動がありました。また、試合会場の雰囲気も最高で、この場に1分1秒でも長く立っていたと思うような場所でした。結果としてはメダル獲得はなりませんでした。多くの方にテレビ、インターネットなど様々なメディアを通して見ていただけて、応援していただけたということは、



各国から来ている選手がいろんなものを食べられるようになっていきます。また、ベジタリアンやハラルなどの食事にも対応しており、時間も24時間開いていることで、試合時間や練習時間、選手のコンディションに合わせて調整できるようにしています。食堂の映像を少し見てもらいたいと思います。1つ目の映像は、食堂の全体の風景になります。このような形でフードコートのようになっています。選手はそれぞれ自分が必要なものをバイキング形式で取りに行き、好きな席で食事をします。もう1つの映像では、同じ食堂のメニューが書いてある看板がスラリと並んで、自分の好きなものを選べるようになっていいることが分かります。世界各国から来た選手が分かりやすいようにメニューが書かれており、広い食堂となっています。ここは2階建ての建物で、かなりの人数が食べられるようになっていいます。次に、日本棟の11号棟の1階の様子です。日本の国旗が置いてあり、自動販売機もあります。この自動販売機は、選手、スタッフには小さなカードが渡され、それをかざすことにより、必要な飲み物が飲めるようになっていいます。また、食堂や試合会場には大きな冷蔵庫が置いてあり、自分のコンディションに合わせて好きな飲み物を選べるようになっていいます。

選手村の中の木で作られたエリアです。ここではお土産を買ったり、散髪をしてくれるところもあります。また、この木は全国から集められた木で作られており、岡山県の木もこのように岡山県と書かれていて、使われているところがありました。同じ場所での夜の写真です。夜10時頃まで多くのスタッフボランティアの人がここでサポートをしてくれています。私は開会式



の前には髪を切りに行き  
ました。直前は3週間の  
ナショナルトレーニング  
センターでの合宿だった  
ため、いつも試合前に髪  
を切りに行っているの  
ですが、行くことができ  
ませんでした。そのため、  
選手村で髪を切ってもら  
い、開会式や試合に臨む  
ことにしました。選手は  
無料で切ってもらえます。

次に開会式です。これ  
は開会式の会場を遠くか  
ら撮影したものです。夜

8時からの開催でしたが、日本選手団の入場は1番最後なので、かなり遅い出発でした。それでも午後6時には集合して会場に向かいました。8時からの1番最初の入場の国は午後3時には集合して開会式の会場に向かっていました。これは実際の開会式の様子です。このように世界各国の選手が席に座って開会式の式典を見えています。私は次の日から試合があったため、入場行進のみをして選手村に帰ることにしました。

先程お話ししましたが、この時の緊張と興奮は今でも忘れることができません。それぐらい特別な瞬間でした。

次に試合会場の映像を見てもらいたいと思います。これは試

合が始まる前の様子です。基本的には立位の選手が4台、車イスの選手が4台を使って8台で試合が行われます。しかし、決勝戦などに進んでいくにつれて台が片付けられ、2台など少ない数で試合を行うようになっていきます。これが会場の全体的様子です。コート番号が書いてあり、無観客ではありませんが、色々な装飾が施されています。これは団体戦の時の写真になります。少し見えにくいですが、卓球台のラインやネットの端には、パラリンピックのマークが施されています。

次に選手村の中の街の様子です。とても広いため、移動がかなり大変です。その中で車椅子の選手も乗れるような小さなバスが運行しています。このように選手村内は道路もしっかりとあり、ひとつの街のような形になっています。

次にレクリエーション施設です。試合の合間で楽しむような場所もあります。これはパラスポーツのボッチャを体験する場所です。パソコンが置いてあり、無人でボッチャを楽しむことができますようになっていきます。このような施設も選手が試合の合間にリラクセスする場として使われています。

これは日本棟の私が生活していた8階からの写真になります。奥の方にある高い建物は選手村の外の建物です。選手村といても街と隣接しているため、ゲートを出るとすぐ普通の街に出ることができるようになっていきます。また右側の方にあるところがバス停になっており、そこから各試合会場に選手は向かうような形になります。

これは選手村にあるパラリンピックのマークのオブジェです。ここで選手は写真を撮ったり、メダルを獲得して記念撮影をし

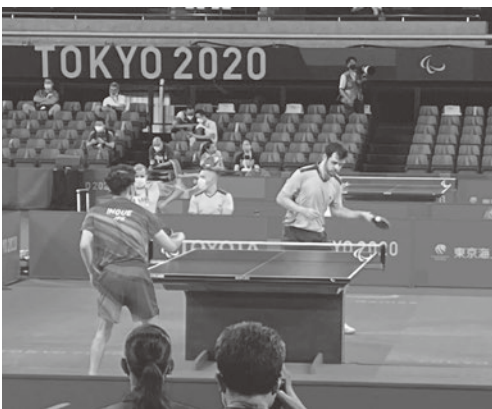
たりしています。

金光学園で始めた卓球が自分の可能性を大きく広げてくれて、私はパラリンピックという大きな舞台に立つことができました。本当に嬉しく感じています。そしてそのパラリンピックに立つためには、内田先生と金光学園の力がなくては、ここまで来ることができませんでした。中学生で一から卓球を教えてもらい、パラリンピックに出場するところまで来ることができました。このような貴重な経験をさせていただけただけに本当に感謝しています。

最後の写真はパラリンピックの試合中の写真です。このように自分が長い間目標にしてきたパラリンピックという舞台に立つことができました。そしてパラリンピックを終えて、私は、明日明後日、大阪で開催されるパラ卓球の全日本選手権に当たる大会に出場します。いろいろと今後の人生を考えていく中で、その大会をもって現役の選手を引退することにしました。これまで自分はパラリンピックに出場するために、強い覚悟と高い意識を持って競技生活を送ってきたつもりでした。しかし、パラリンピックに出場して海外の選手のパラリンピックにかける強い思い、ここで結果を出す、ここでメダルを絶対取るという強い覚悟と高い意識でこれまで取り組んできたということを感じ、圧倒される部分もありました。それを実際にパラリンピックに出場して肌で感じることは非常に貴重な経験であり、これからの人生にとって大きな糧になると思っています。その中で次のパリパラリンピックを目指すと考えた時にこれまで以上の努力と時間を卓球に注ぐ必要があると思います。

私はパリを目指すのではなく、新しい挑戦をすることにした。実は実家がお寺であり、そのお寺を継ぐために僧侶になることにしました。幼い頃からお寺で育ち、師匠である父の姿を見て、いつの日かは同じ僧侶の職に就きたいと強い思いを持っていました。そのため、現役を引退して僧侶になるための修行や勉強をすることにしました。それから卓球においては指導者を目指し、恩師である内田先生のもとで勉強させてもらい、指導者としての道をスタートさせたいと思います。現在も、金光学園の中学生の指導をさせてもらっています。パラ卓球の方では、今後多くさんの人を知っていただくために広めていく活動をしていきたいと思っています。また、これからの若い選手がパラリンピックを目指したいと思ったときにしつかりと挑戦できるような環境も整えていきたいと考えています。

今回の東京パラリンピックはパラ卓球や多くのパラスポーツを知っていただくきっかけになったと思います。ここで終



わらず、ここがスタートだと思い、活動をして行きたいと思っています。

最後になりましたが、私から2つのことを皆さんに伝えたいと思います。1つ目は挑戦ということ です。私はこれまで挑戦するということを大切に して取り組んできました。そして先程も申しましたが、目標を立ててさまざまなことに挑戦してきました。そして何よりも楽し みながらというのが大切だと思っています。私も卓球が楽しく始めて、卓球が楽しくて、これまで続けてきました。楽しいからこそ続けられると思っています。その気持ちを大切に してほしいと思います。そして2つ目に感謝ということ です。私は本当にたくさんの人に支えられて、ここまで来ることができました。その感謝の気持ちを忘れない、それを言葉で伝える というのが非常に大切だと思っています。現在は新型コロナウイルスの影響で、さまざまな制限があるかと思っています。今の生活は当たり前前で、当たり前前ではないということも私も実感しています。当たり前前のように海外遠征に行っていました。



それが難しくなったのが現状です。そういうことがあるため、感謝の気持ちを忘れず、毎日の生活を送っていきたくと思っています。

最後になりましたが、私はこの金光学園で多くを学び、そして世界への道が広がりました。皆さんにもこれからたくさん のことに挑戦していただきたいと思っています。私は、この金光 学園に6年間通って良かったと心の底から感じています。皆さんのこれからの活躍を願っています。ご静聴ありがとうございます。

#### 講演後の生徒との質疑応答

(質問内容は運動部の生徒に事前アンケートで聞いたものをもとに放送部が質問しました)

**放送部員** 井上先輩、貴重なお話をありがとうございます。ここからは生徒の皆さんから寄せられた質問に答えていただきたいと思っています。まず初めは男子バスケットボール部です。試合中には何を考えていますか？

**井上選手** 試合中はもちろん、自分が練習し、取り組もうと思っている戦術とかもあるんですけど、その時の身体の調子というのをすごく意識しています。やはり身体の調子というのはいくら整えてもその日その日で違うので、その日自分が試合をやっているときに敏感に自分の身体のことを意識して、今までやってきたことはありますが、それを発揮できない時もあるので、その自分の身体の調子に合わせた最大限のパフォーマンスを意識するようにしています。

**放送部員** ありがとうございます。もちろん、試合に臨む中で身体の調子はとても大切だと思います。その中でも試合の前日、それから次の日のことで何かがかけていることはありませんか？

**女子バスケットボール部と陸上競技部からの質問です。**

**井上選手** まず試合の前日、いちばん大切なのはしっかりと睡眠をとることだと思っています。とにかく自分が寝たいと思う時間を、ぐっすり眠ることが大切だと思っています。それからいつも通り過ごすということがすごく大切だと思います。試合前なので、何か特別なことをしたりとか、試合前になってバタバタとこれまでの自分の試合を振り返ったりとか、映像を見て分析するというよりは、自分が1番リラクセスできる状態でいつも通りの生活をして試合に臨むことが大切だと思っています。それから試合の次の日なんですけど、私はまず回復ということを大切にしています。次の大会だったり、練習に影響が出ないように回復に努めることがいちばん重要だと考えています。その中で、次の日からいつも通りの練習ができそうということであれば、練習する時もありますし、いや、今回の試合はかなりハードだったから、少し時間をかけて休もうという時もあります。それはその時の自分のコンディションで調整して、試合後に無理をして長く休んでしまうようなことにならないように考えています。

**放送部員** ありがとうございます。井上先輩が試合の前日に心掛けておられることは、これから私たちが大会や試験に臨む時にも役に立つことだと思います。続いて、少林寺拳法部からの質問をさせていただきます。先輩にとっていちばん大切にして

いる信念や信条は何ですか？

**井上選手** 先程の話の中にもあったのですが、挑戦するということと、自分を最大限に活かすことです。その中で、やはり試合となれば、自分は最後まで絶対に諦めないという気持ちを強く持つてやっています。これまでも試合の中でかなり劣勢で、負けそうということもあったのですが、諦めない気持ちで大逆転し、勝利に繋がった経験もあります。

**放送部員** ありがとうございます。試合の中で、やはり大切にしていることが沢山あるかと思うのですが、その中でも本番ということになる、いつものプレーができなかったり、精神状態が違ってきってしまったらと思うのですが、そういう時先輩はどういうふうなことを自分の中で考えて心を落ち着かせているのでしょうか？ 野球部からの質問です。

**井上選手** 試合は誰でも緊張するものだと思います。試合だけではなく、私は今日の記念講演も非常に緊張していました。ただ、その中で私は緊張を受け入れるということをすごく大切にしています。緊張したくないとか、緊張しないようにしようとすると、もっと緊張すると私は考えています。私はどちらかと言うと、多分緊張する方のタイプの選手なので、試合中には手が震えたりだとか、足が震えたりだとか、接戦になれば



なるほど、そういう状況になります。でも私の中では、ある意味手が震えている、足が震えているというのは、いつも通りの自分だなというか、いつも緊張している自分だなというように感じながら、それを受け入れてプレーをしています。

**放送部員** ありがとうございます。続いても野球部からの質問をさせていただきたいと思います。井上先輩が卓球以外のことで何か頑張ろうと思ったことはありませんか？

**井上選手** 卓球以外のこと……そうですね。私はこれまでパラリンピックを目指してきて、卓球に多くの時間を費やしてきたのですけど。その中でも卓球に関わってしまうんですけど、分析する時間だったり、トレーニングする時間だったり、それから自分の部屋でゆっくり好きなことをやる時間だったり、なんでもだと思っんですけど、私の中では全てが卓球につながってくると思っ、意識をして取り組むようにしていました。もちろん卓球のことを何も考えずに休むときもあります。例えば、自分にとって大変なことだったりとか、難しいことだったりしても、それをクリアすることによって、何か卓球にも良い要素があるんじゃないか？ 中学生、高校生であれば自分がテストに向けて勉強を頑張ることが部活動にも生きるんじゃないか？ 部活動で頑張っていることが、そういう勉強する上でも生きてくるんじゃないかというように、私の中ではいろんなことが、全部卓球につながると思っ取り組んでいました。

**放送部員** ありがとうございます。大変なことを自分の力に変えるという点では、私たちも真似したいなと思うところがあるのですが、先輩がいろんなことを経験していく中で、やはり友

達と違うというところで挫折したりとか、世界ランキングが下がって落ち込んでしまったり、苦しいと思ったり、嫌だと思ったりとも沢山あると思いますが、それを乗り越えていく方法があれば教えてください。私たち生徒も部活動や勉強の中でいろいろと悩むことがあると思うのですが、何かアドバイスがあったら教えていただきたいです。バスケットボール部、野球部からの質問です。最後の質問となります。

**井上選手** 私もこの卓球を始めて、パラリンピックに出るまでは、これまで本当にたくさん苦労がありました。やはり成績が良い時ばかりではないので、どんな結果も出て世界ランキングも上がっているという時もあれば、本当に練習しても練習しても勝てない、世界ランキングも下がるし、練習もうまくいかないう時もありました。その中で私の心の支えになっていたのは家族だったり、コーチとしてお世話になっている内田先生だったり、身近な人、サポートしてもらっている人の顔がいつも浮かんでくるところがありました。だから、本当に結果が出なくて卓球を辞めたいという時もあったのですが、やはり自分を信じて努力を続けていけば、いつかそれが報われる時が来るというのを信じ続けて、自分を応援してくれている人や支えてくださっている人にいい報告をしたい、一緒に喜んでほしいという思いで続けてきました。

**放送部員** ありがとうございます。周りの人の支えが、とても先輩の力になったんだということが良くわかりました。その卓球選手としての活動であったりとか、インスタの活動だったり、それからパラリンピック選考までのプログなどを上げていらっ

しゃいましたよね。そういう情報発信だったり、この度の現役を引退されるという決断であったりとか、それからまたお父様の後を継いで僧侶になられるということや、卓球の指導に当たりたいというふうには、さまざまな活動に前向きに挑戦していらっしゃるその姿は、私たちも見習わなければならないと思いました。本日は本当にありがとうございます。

**井上選手** ありがとうございます。

## 映画「とんび」来年には封切り

先日ある先生が町内の銀行に行ったら、映画「とんび」のチラシがあったので持ち帰り見せてくれました。それと同じポスターが町内に貼ってありました。昨年の12月号の「道(27)」と今年の3月号の「道(28)」に金光町がメインロケ地になって撮影された映画「とんび」のことや、ロケのこと、小説のことを書かせてもらいました。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で撮影された映画が、ついに来年春には封切りになるとのこと、またその頃に合わせて、ロケ時の町並を再現するという話も聞き、私はとても楽しみにしています。原作の小説は購入していたのですが、なかなかゆっくり読む時間がありませんでした。それが、私はこの秋ちよつとした病気で短期間なのですが、入院することになり、病院ではすることがないので、平生の忙しさから離れ、本を4・5冊読むことができました。もちろん小説「とんび」も読みました。最初から最後まで涙が溢れてくることしばしばでしたが、看護



新たな「とんび」と「感」で贈る、いつの世も変わる事のない親子の絆を描く「家族の物語」

師さんが涙を流している私を見て、「どこか調子が悪いのですか？ 大丈夫ですか？」と聞かれるのです。私は若い看護師さんに小説を読んでも泣いていますとは言えず、「なんでもありません」と答えると、余計どこか痛いところがあるのではないですか？ 遠慮しないで言ってくださいと言われるのであります。笑い話のような話なのですが、昭和の時代の親子の絆を描いたこの感動的な小説に入り込んでしま、小説を読みながら映画ではどんな場面になっているのだろうかと思像しながら読んだようなことであります。私は本来あまり映画を見ることはありませんし、映画の封切りを楽しみに待つたことなどありませんが、この度は大変楽しみにしています。是非皆さんも金光町大谷がメインロケ地になった映画を見て欲しいと思います、この「やつなみ」にもチラシを載せて宣伝させていただきます。



メタセコイヤ

### 服部和人先生 私学協会功労者表彰を受賞

服部和人先生が令和3年度岡山県私学協会功労者表彰を受賞されました。「この度の受賞について、心から御礼を申し上げます。みなさまに支えられて、今まで勤務して参りました。これからも頑張りますので、よろしくお願いいたします」と語る服部先生のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとうございます。



行われた全国高等学校総合体育大会に出場した。全国大会という舞台に立ち、6年間の集大成となる演武ができたことは一生の思い出だ。また、大会の開催や6年間共に励まし支えてくれた仲間を始め、先生や親など関わったすべての方々に心から感謝の気持ちを伝えたい。



### 高校陸上競技部 県総体 走幅跳 5位

高3 荒川 歩夢

僕は走幅跳で県大会5位に入賞し、全国大会に出場することができました。小学1年の時から12年間続けてきた陸上競

# 活躍おめでとう

### 中学卓球部 中国中学校卓球選手権大会出場 中3 白神巧志朗



第46回中国中学校卓球選手権大会の男子個人の部に出場し、結果は予選リーグ1勝1敗で予選リーグ敗退でした。中国大会に出場した感想は、団体戦としてチームのみんなと出場できなかったことは寂しかったですが、中国地方には強い人がたくさんいて、技術面、メンタル面、パ

技で、最後に中国大会に出場できて、とてもうれしかったです。陸上部では仲間にも恵まれたことできつい練習も乗り越えることができ、顧問の先生からのご指導のおかげで記録を伸ばせたので、とても感謝しています。本当にありがとうございます。

### 三段跳 6位 高3 西森 翔真

私は6月18日〜20日に開催された中国大会に参加した。全力を出し切ったが、入賞まで9cm届かなかった。支えてくれた人たちに恩返しができなかった悔恨、不甲斐なさを抱いたあの日を今でも忘れることができる。

### 走幅跳 6位 高2 六原 未智

私は県大会で走幅跳6位に入賞し、中国大会に出場した。周りの選手や雰囲気、圧倒され、思うような結果は出せなかったが、中国大会という場でプレーできたことは良い経験だったと感じている。この経験を活かし、来年は全国の舞台で勝負できるように日々努力していきたいと思う。

フオーマンズなどが勉強になりました。僕は、金光学園に入学した時に、団体戦と個人戦で全国大会に出場することを目標にしていました。中学1年の冬には中国大会では団体戦ベスト8に入賞しましたが、キャプテンになった中学2年の冬には出場が決まっていた中国大会がコロナ禍のため中止になりました。中学3年の最後の夏は、全国大会を目指してみんなで頑張りましたが、県大会3位で団体戦は中国大会に出場できませんでした。高校生になったら全国大会出場を目指してもっと強くなろうと思っています。金光学園卓球部の応援宜しくお願いします。

### 少林寺拳法部 県総体 女子自由組演武1位 インターハイ出場

高3 虫明紗桜理・難波日奈子  
私達、高校少林寺拳法部は、長野県で

### 文芸部 第23回高校生文芸道場中国ブロック大会(島根大会) 散文部門 優秀賞



私は高校生文芸道場中国ブロック大会で優秀賞をいただきました。最初の最後の大会でこのような賞をいただけるとは思っていませんでした。驚くとも嬉しい気持ちでいっぱいです。文芸部では月に一度テーマを決めて小説を書き、先生や仲間と一緒に批評会を行います。とても大変でしたが、やりがいがありました。受賞作「幸せのかたち」も初稿は拙いものですが、批評会でもらったアドバイスを活かし、推敲を重ねることで、文章量も倍以上になりました。ですから、今回の優秀賞は私だけのものではなく、先生や仲間たちみんなのものでもあります。

金光学園の文芸部で活動できて本当に良かったです。これからも執筆を続けて、素敵な物語を紡いでいきたいです。

# 「ここから通っています」 学園生の故郷

## 尾道市山波町<sup>さんば</sup>

尾道といえは、千光寺や浄土寺など「寺の街」、ご当地グルメの「尾道ラーメン」が有名かと思えます。人口13万人とあまり大きくはない街ですが、実は広島県下では2番目に市制施行され、一八九八年に「尾道市」になりました。

尾道は、開港八〇〇年を越えた尾道港があり昔から物流の要所でした。近年では、今治とつながる「しまなみ海道」と松江とつながる「中国やまなみ海道」の出発地であったり、豪華寝台列車「瑞風」の停車駅にもなっており、物流のみならず観光地としても全国的に知名度の高い街です。

さて山波町ですが、尾道市東部の尾道水道沿いに位置しており、その名の通り山と海に囲まれています。そんな山波の魅力は、果物と祭りです。

まず果物は、みかん、桃、無花果の畑が平地だけでなく日当たりの良い山の斜面に

もたくさんあるので、甘くてとてもおいしい果物が採れます。中でも蓬萊柿<sup>ほうらいし</sup>という品種の無花果は尾道市が全国1位の生産量です。

そして祭りですが、山波には年に2度の大祭があります。

1つは1月の神明祭(とんど)です。正月の神迎えの依り代として用意した門松やお正月飾りを燃やして炎や煙と一緒に天に歳神を再び送る行事です。稲わらで美しく作り上げられる高さ約5メートルのとんどの上部にはその年の干支を飾ります。大きく華やかなとんどをただ燃やすだけではありません。味わいのある囃し歌にあわせ、やぐらを組んだ2〜3基のとんどをお神輿のように担ぎ回し、激しくゆすったり、ぶつけ合ったりします。見ている人も思わず歌ってしまいうれしくも楽しいお祭りです。

もう1つは10月の餅つき神事です。由来はこの地を訪れた吉備津彦尊へ地元者が餅をついて献上したという話です。五穀豊穣に感謝し、1年の無病息災を願う行事ですが餅のつき方が一風変わっています。ふんどし姿の若者が木臼を杉の丸太で担ぎ町内を練り歩き、海水で臼と体を清めます。その



後良神社の境内にて餅をつきますが、ペタンペタンではなく10本程の立杵を使って大人数でのスピード感のある餅つきが行なわれます。最初についた餅は神社へ奉納しますが、2回目以降の餅は「食べると風邪をひかない」と言われている事から神社に集まった人達が立杵についた餅を取り合います。たくさん取れた人は色々な人から声をかけられたり餅を分けてあげたりします。見た目も迫力もインパクトがあり町民みんな楽しんでる祭りです。

山波の祭りや古寺めぐり、尾道ラーメンに興味がありましたら、ぜひ遊びに来てみて下さい。

中1の母 太田 斉乃

## 山口県周南市鹿野地区

周南市は山口県の東南部に位置し、鹿野地区は周南市の北部、島根県との県境に接した山間の位置にあります。県内で一番長い川、錦帯橋でおなじみの錦川の源流をもつ地域です。

江戸時代には萩本藩に属し、山代からの萩往還の拠点として、又この地域の交易の中心、地方行政の中心として、重要な役割を果たしていました。平成15年4月に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併し、周南市の一部となりました。



鹿野地区には、中国自動車道が通っており、金光学園までは、鹿野インターチェンジから約220km、3時間くらいかかります。この鹿野地域は、古い歴史を有し、その時代時代を今に受け

継ぐ、貴重な文化遺産があり、先人の偉業を今に伝える潮音洞をはじめ、中山



地蔵菩薩 漢陽寺、二所山田神社などあります。また古くから伝えられてきた神楽や長持ち、奴道中などの伝統芸能・行事を継承していく活動も行われています。

二所山田神社内にある「女子同社」では、全国各地の神社仏閣に広く販売されている「おみくじ」が作られています。「おみくじ」は、今でも一つひとつ手折で丁寧に仕上げられ創業当時の趣を伝えています。心を込めて折られたおみくじは神社に祀られ、清めの儀式の後、日本全国だけでなく、遠くはハワイまで発送されているそうです。

また「漢陽寺」の庭園は、この度園の登録記念物に登録されることが決定しました。昭和40年代に作庭家の重森三玲氏が作ったものです。曲水をテーマとして、心に古山水形式を融合させ、遺水を通し、古滝、築山などの構成を取り入れた、禅庭としては珍しい曲水庭です。息子は中学まで自然や歴史に囲まれた鹿

野の地で育ち、生まれた時から旧山代街道沿いにある、鹿野上教会に毎日お参りし、金光教の教への元育ちました。小学生の時に金光学園グラウンドで行われたソフトボール大会に参加し、野球部の先輩に出会い、その時から金光学園に行くことを希望しておりました。この度晴れて念願である金光学園に入学することができました。

親元を離れての生活で不安はありますが、ご霊地で生活ができること、全ては金光様にお礼お祈りしながら、これからの金光学園生活、新しい仲間の出会いを通して、息子の成長に期待し、鹿野

の地で見守っていきたくと思います。寮生活で、先生方、保護者の皆様にはご迷惑をおかけすると思いません。これから、どうぞよろしくお祈りいたします。



高1の母 岡成 香利



# 「広い世界を見る」 「恐れずに挑戦すること」

青木 俊樹 (高53回卒)



中学受験で不合格だった金光学園には、自身の中で憧れが強く、再度高校受験をして入学する事が出来ました。高校時代は勉強に励むというよりは、陸上部に所属しながらバンド活動に没頭していたのが思い出です。英国ロックやミクスチャーロックといった洋楽を好んで聞くようになった事も学園の友人の影響が強くありました。

学園のバンド仲間が皆個性があり、僕も遅れを取らないよう、気になったバンドは直ぐに譜面を手に入れ練習していた記憶が蘇ってきます。

日々、洋楽に精通していった事もあり「将来は国際的な職業に就きたい」と漠然と思うようになりました。そうして高校卒業後は関西外国語大学

に入学しました。

2年生の時に偶然見た、「GO」という映画の中で、広い世界をみるのだよというセリフに感化され、交換留学生として1年間オーストラリアのパーズに留学しました。

この留学経験がさらに海外に興味を持つきっかけとなった出来事です。

パーズから帰国後大学を卒業し、東京のAPAREL会社【ワールド】に就職しました。

国内外の縫製工場と連携し納期管理を行ったり見積もり算出をしていく日々が始まりました。留学経験があり英語に精通しているという理由で、担当外であった海外ライセンス契約出張に通訳として同行させてもらったり、恵まれた環境で

あつたと思います。

その反面、デザイナーやパターンナーの方達との交流が深まり、日々創造をしていく仕事に憧れが湧いてきました。

3年後、今しかない！ と思い切って退社、デザインを学ぶため憧れのロンドンに留学を決心し、ロンドン芸術大学でメンズウェアを学びながら放課後は現地のデニムブランドでインターン生として働きました。デザイナー業務も全て英語でしたが、留学経験や東京での社会経験が、私を大いに助けてくれたのを思い出します。

一方で大学から出される課題は山積みで、両立はとにかく大変でした。まささらのスケッチブックを渡され、

業が多かったのを覚えています。

イギリス留学中、デニムファクトリー M A D E N I M / I B A R A D E N I M という言葉を現地のアパレル業界の人達から耳にし「井原のデニムってそんなに有名なのか！」と痛感していく中「自分のブランドで勝負しよう！」と、思い切つて実家である青木被服にサンプル依頼をします。

完成したサンプルを送ってもらい大学の休日に合わせて、ヨーロッパほぼ全土の名立たるセレクトショップを格安チケットとスーツケース一つを武器に巡っていきました。

マラガ、マドリッド、ベルリン、プラハ、アムステルダム、ジュネーブ、ミラノ、思いつく限りリサーチをかけ、まさに飛び込み営業を繰り返す日々でした。

当時のヨーロッパでは日本の新鋭ブランドは取り扱いが少な

「3日後いっぱいしてきなさい」であったり「好きなデザイン画を1日に10枚書き毎日提出しなさい」といった、頭の中を2次元に書き写すような、創造的な授



く「バイヤーと話がしたい。僕の洋服を見て欲しい！」と直接出向くのですが、日本では門前払いになるこの行動は「面白いやつがきた！」という反応が多く、一流ブランドと同じラックに陳列してくれるストアが増えていきました。

この経験は、何事も先ずは挑戦してみろという行動力、そして営業的な能力にも繋がっていったのだと思います。

このような地道な活動もあり少しずつブランドのお客様が増えてきました。

2011年以降、ロンドンと東京をベースにパリで展示会発表も出来るようになり、日本発でなく「逆輸入ブランド」の印象を狙い、ヨーロッパ展開を主にブランド戦略を立てていきました。年に2回パリで発表をするサイクルを繰り返すうち、2015年には15カ国もの国々から発注を受ける程、ブランドとして成長する事が出来ました。

海外からの注文を慌ただしく整理していたある日、イスラエルの取引先から連絡があり「T O S H I K I の洋服は、元ビートルズのリングスターが大好きなんだ。新作を楽しみに買いに来てくれるか

## 青木 俊樹プロフィール

### Profile:

- 1983年 岡山県井原市生まれ  
2001年 金光学園高等学校卒業  
2005年 関西外国語大学卒業  
2005年 株式会社 WORLD 入社「TAKEO KIKUCHI」生産勤務  
2008年 London College of Fashion にて Menswear 専攻  
2011年 ロンドンにてメンズブランド「SNAKE&DAGGER」勤務  
2011年 青木被服株式会社入社、「FAGASSENT/ファガッセン」をスタート

### [FAGASSENT /Biography]

- 2012年1月 WHITE HOMME 出展 / Milan, ITALY  
2012年2月 PITTI UOMO 出展 / Florence, ITALY  
2012年2月 TRANOI HOMME 出展 / Paris, FRANCE  
2013—2020:  
1月 FAGASSENT PARIS GALLERY にて秋冬コレクション発表 / Paris, FRANCE  
6月 FAGASSENT PARIS GALLERY にて春夏コレクション発表 / Paris, FRANCE  
2017年1月 米ロックバンド「ガンズアンドローゼズ」とのコラボレーションライン発表  
2020年1月 PROJECT 出展 / Las Vegas, U.S.A

### [衣装制作]

- 2014年 長瀬剛様 紅白歌合戦2014  
2015年 長瀬剛様 10万人オールナイトコンサート in 富士山嶺  
2017年 YOSHIKI 様 (X JAPAN) / WORLD TOUR 2017  
2018年 X JAPAN / Coachella Festival  
2019年 稲葉浩志様 (B'z) / SUMMERSONIC FESTIVAL 2019  
2020年 長瀬剛様 / ALLE JAPAN ONLINE LIVE  
2020年 Taka 様 (ONE OK ROCK) / Field of Wonder ストーリーミングライブ  
2021年 Taka 様 (ONE OK ROCK) / 楽曲「Renegades」Music Clip

「早く納品して欲しい」と聞いた時は本当に嬉しくなりました。  
また国内では稲葉浩志さん (B'z) / ONE OK ROCK / YOSHIKI さん (X JAPAN) にも着用頂いている他、長瀬剛さんに至っては「僕は青木デニムのファンなんだ」と言ってお下り現在8年間に渡る交流の中、コン



サートが決まるたび「青木君の履くから頼むよ！」と衣装の制作を度々依頼して頂くようになり、私にデザイナーとしての責任と自信を与えるきっかけを下さいました。  
振り返れば、私自身が高校時代に没頭していたアーティストやミュージシャンを好きな方々が自身のブランドのファンとなり、支えてくれていた事に気づき、音楽をやっていた本当によかった！と高校時代の日々がさらに輝かしいものとなっています。

「広い世界を見る」  
現在もこの言葉は自分にとって、恐れず挑戦を日々繰り返していく事と心に留めています。2022年には自身のブランド「ファガッセン」は創立11年目となります。しかし2020年以降コロナを機にファッション業界にも大きな変化があり、オンライン展示会がメインとならざるを得ない状況ではありますが、現在アメリカでの営業を強めています。コロナ禍だからといって内を見ず外を意識する。  
2022年はアメリカ全土への進出を



視野に入れラスベガスでの展示会を見据えているため、現在コレクション制作をしている最中です。  
日々挑戦をしていく事で、未だ見ぬ奇跡や偶然に繋がる架け橋を作っていけるのだと信じています。

# やつなみ保護者会のページ

## 指導部

部長 為房 友佳

指導部は、今年度9名で活動していきます。

指導部の主な活動は、

研修会の参加

保護者地区会の開催に関するこ

岡山県広域特別補導への協力参加

生徒に関わる問題点の検討

等です。

コロナの影響で、例年と同じ時期に地区会の開催ができなかったり、岡山県広域特別補導への協力参加につきましても先生方のみの参加で、保護者は参加できなかったりするなど、制限や変更が多い中での活動となりそうです。

「わが子が事件事故に巻き込まれることなく、快適で楽しい、充実した学校生活を送ること」は、私たち保護者が持つ

## 教養部

部長 高倉 優子

今年度の教養部は、6名の部員で活動させていただいています。主な活動内容は、年3回発行される「やつなみ」の保護者ページ作成、研修旅行の企画、研修会の参加です。

昨年度同様、新型コロナウイルスの影響により、今年度も活動内容がかなり変更、縮小されています。教養部の大きな

活動でもある毎年秋に開催されていた研修旅行も、昨年に引き続き残念ながら中止となりました。

今年は学園の大きな行事であるほつま祭や修学旅行も中止となりました。校内での子供たちの行事縮小、クラブ活動制限昼食時の黙食、友人知人との交流の制限など、コロナ以前から学園生活は大きく変わりました。昨年にひきつづき、手洗いうがい、マスクの徹底、十分な休息と栄養補給で、先生方、生徒、保護者が無事にコロナ禍を乗り切れますよう、コロナの終息を願うばかりです。

行事の中止変更で、子供達の本来の学び、経験が失われてしまった事はとても寂しく残念ですが、制限のある中でも、毎日の登校が許され、オンラインではなく対面での授業が行われ、交わす言葉は少なくとも、楽しい学園生活が送らせていただけている事は、本当にありがたい

事だと改めて思い返す一年でした。

学校生活以外での色々な制限も、今後益々厳しくなってくるかもしれないせんが、どのような状況になっても、「人をたいせつに」、自分をたいせつに、物をたいせつに「の心を忘れず、教養部メンバーで明るく活動して参りますので、今年度も皆様のご支援ご協力をよろしくお願いたします。

## 庶務部

部長 岡本 理奈

今年度の庶務部は28名で活動しております。主な活動内容はほつま祭での友愛セールの準備と開催です。

友愛セールでは、ほつま祭に体育館下等で、各ご家庭や協賛企業様からの寄付や、庶務部主催の手作り会で作成した手作り品を販売させていただいております。

今年度は緊急事態宣言や雨の影響で、手作り会を数えるほどしか開催できませんでした。その中でも、庶務部員はじめ有志の役員の方、保護者の方、OBの保護者の方までご協力いただき、ご提供いただいた制服をリメイクしたミニチュア

制服を着たくまのぬいぐるみや、制服を材料としたティペア、ストラップ、マカロンポーチなど20を超える手作り品を準備することができ、学園保護者の絆を感じることができています。

しかし、残念なことに新型コロナウイルスの影響でほつま祭が中止となりました。生徒たちの思い出の制服をリメイクしたペアを、なんとか各ご家庭に届け記念にできないかと、先生、三役の方に協議していただき、メール販売をできることになり安堵しています。

10月より、来年のほつま祭に向け手作り会を感染予防に徹して開催してまいります。ご支援ご協力をよろしくお願いたします。

## 表紙の言葉

中2 中尾 優那

とどまればあたりにもふゆる蜻蛉かな  
思わず立ち止まり、正体を確かめようと辺りを見回す。すると、今年初めて目にする蜻蛉が何匹も飛んでいる。

僕はこの俳句を読んで、赤蜻蛉が連れてくる秋の鮮やかな情景が浮かびました。

版画を描く時には、きちんと蜻蛉が秋を連れてくる感じになるように、体を秋のような生き生きとした色で、目もすき通ったように描きました。また、蜻蛉の姿を強調するために背景を薄い色でぬるように工夫しました。さらに、蜻蛉の周りに植物や雲を描くことで、秋らしい雰囲気になるように表現しました。

この俳句から虫によって季節の変化に気づくこと、ほんの少しのことからも美しさを知ることができることを学びました。そういう身近なことにも心を配っていきいたいと思いました。

## 中2 広島平和研修



当たり前の日常へ

1組 藤井 千夏

1945年8月6日に広島に落とされた原子爆弾。この一発で、14万人の人が亡くなったのではなく、殺されたのです。またその中には、何が起きたのかわからずに亡くなった方が大勢います。どうしても無差別に人を殺せるのか。私はいつも戦争の話を知るとそう思います。

今回、新井さんの話を聞いてみて、当時の状況がよくわかりました。軍隊がトップであり、逆らうと非国民になると。原子爆弾を落とされた広島街の中は、赤裸の人が手を前に出して幽霊のようになっていること。原子爆弾が落とされた時は生きていたものの、そのあとに降った放射能を含んだ黒い雨を浴びて出血、脱毛で亡くなってしまったこと。これらの現状は今ではありえないことです。76年前に本当にあった出来事なので



す。やはり、当時の人たちの立場となつて考えると、「ふざけるな」という気持ちです。後世に伝えようとする被爆者を改めてすごいと思いました。

今私たちは、学校で授業を受けることができるし、ご飯だって三食食べられる。



そういう当たり前の日常が76年前は当たり前ではなかったことを実感しました。被爆者の平均年齢は84歳だそうです。どんなに年を重ねても、あの当時の記憶は鮮明に覚えているのです。それだけ、戦争というものは忘れ去ることができない出来事なのです。新井さんがおっしゃったように、被爆者のバトンを受け取り、

次の世代へつなぐことが、私たちにできることだと思います。実際には体験していないけれど、どんな形であっても、後世に伝えることはできるのです。今、平和に過ごせていても、この日常は当たり前にはありません。平和に過ごせている前ではありませぬ。平和に過ごせているのは、奇跡に近いです。この奇跡に近い日常が、今後も当たり前の日常であり続けるように、私たちにできることを考えていきたいです。

今を生きる僕の責任

2組 西山 和志

「おかえり」。僕が広島研修を終えて家に帰ると、この言葉が聞こえた。この言葉を聞いて、家族が待っている家に帰りたいと思いつながら帰れなかった76年前の広島の人々の姿が浮かんだ。その瞬間、母から「今日どうだった？」と聞かれたが、どうだったかなんて、一言で答えられるわけがない。もし、答えるなら「心の奥底が疲れた」だった。

僕が広島に行つて感じたことは2つある。1つ目は、戦争は多くの関係ない人が巻き込まれ、戦争をしている最中も様々な被害が出るが、戦争が終わってか

らも様々な形で被害を出し続けているということだ。つい先日も新聞に「黒い雨原告団勝訴」の文字があった。76年たった今もなお、身体の傷、心の傷に苦しむ人がいる。2つ目は新井さんの「核戦争が起こったら勝者はいない。全員負ける」という言葉だ。本当にその通りだと思つた。そして「負け」だからこそ強く学んだことが、戦争をしてはいけないこと、核を廃絶するべきだということだと分かった。平和祈念資料館に入る際、事前学習の時の山路先生の言葉を僕は頭の中で繰り返していた。「死者との対話。しかし、正直なところ、対話はできなかった。僕の心の弱さだと思ふ。怖さから、目を見て、心を相手に向けることができなかつたのだ。今でも思い出す、被害にあった人々の写真。苦しさと、悔しさが感じられる顔。この顔を僕は忘れてはいけないと思う。忘れないうことが、事前学習をして、被爆した新井さんの話を聞き、平和宣言を行った僕の責任だと思ふ。

広島での学びを未来に繋げる

3組 高木 柚奈

8月6日、午前8時15分。広島に世





界で初めての原子爆弾が投下された。一瞬で多くの人を殺し、広島は焼け野原になった。

中学2年生は7月17日、広島平和研修で平和記念公園や原爆ドーム、平和記念資料館等を訪れた。また、被爆体験者である新井俊一郎さんのお話を聞いた。

資料館には、多くの写真や日用品が展示してあった。それらは目にするだけで体がつらく、想像するだけでも苦しく

なった。多くは私の想像を遥かに超えていて、本当に日本で起こった出来事なのだろうかと、現実をなかなか受け入れられなかった。

原爆ドームは、原爆の恐ろしさを当時から現代、そして後世へと伝え続けている。周囲にはまだ、多くのがれきが散在していた。この建物1つで、原爆の恐ろしさ、そして、とても悲惨であった当時の状況もよく分かった。

平和記念公園の原爆の子の像には、多くの千羽鶴が献納されていた。私はそこで、千羽鶴の重い意味を知ることができた。

新井さんのお話の中で最も心に残っているのは「話すことは供養である」という言葉だ。語り継ぐことが、亡くなった方々の供養になる。後世へバトンを渡す

ことが大切だと気付かされた一言だった。私は、この広島平和研修を通じて、平和の尊さを改めて実感した。同じ過ちを繰り返さないためにも、「話す」ということをしなければならぬのだと思った。新井さんから渡されたバトンを未来へ繋いでいくこと。それは、平和を想うことだ。これからも平和な毎日が続いていきますように……。そして、私が戦後の今と未来を繋ぐかけ橋となれますように……。

#### 広島平和研修を終えて

4組 村上 遼

平和とは何なのか。平和とはどれほど尊いのか。今回の広島平和研修を通じて、改めてこれからのことについて考えさせられました。

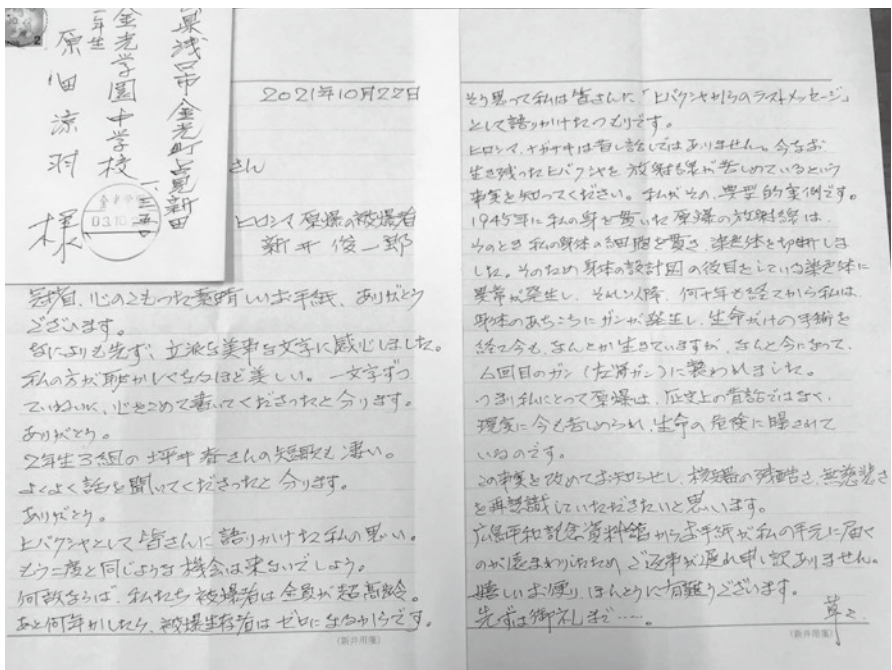
この研修で私の心に最も残ったことは、語り部である新井俊一郎さんの講話を聞いたことです。新井さんの心のもった言葉の重みや、時々語気の強まる様子などが印象に残っています。その中でも、新井さんの「知っていて行動しないのはおろかだ。皆にも聞いた責任がある」という言葉が特に心に刺さりました。私はこの言葉を聞いて、次世代を担っ

ていく私たちの責任の重さを実感しました。また、新井さんは「現在、世界では一万三千八百発の爆弾が、ボタン1つで爆発するようになっている。のんきに暮らしている場合じゃない」とも言われ、私はそれを聞いて、私の今までの戦争に対する意識の低さを痛感しました。

今回の研修では、広島平和記念資料館にも行きました。実際に写真や遺品などを見て、戦争・原爆について学びました。広島平和記念資料館を訪れたのは今回が初めてで、実際の写真などを見て、本当に驚きました。過去に人間が行ったこととは思えませんでした。恐怖を超えた恐怖を感じました。私は、今回感じたこれらの感情を一生忘れないと思います。

私は今回の研修を通して、改めて、今生きていることのありがたさを実感しました。また、これからも人間が生きていくためには、核兵器を、戦争をなくすための努力をして、過去の過ちを後世に伝えてゆくことが必要だということも学びました。

私はいつまでも平和を願い、平和を実現するために努力していくことをここに誓います。



中2

# Kibi Autumn Adventure

## Through Kibi Autumn Adventure

Chinatsu Fujii



I thought that I couldn't speak English perfectly, but I wanted to try speaking English because I hardly get the chance to talk to many teacher from foreign countries.

First, we played Australian dodgeball. It was difficult for me to understand its rules in English, but I kept listening to them. Through it, I could learn English, enjoying sports.

Next, we began to learn prepositions, but I couldn't understand some of them. However, it was interesting to study them.

The most enjoyable lesson was making words. It was a game where we thought what words we could make and we fought to make as many words as we could. Though it was difficult, it was a good chance to know many words.

Asking our instructors made my ability of speaking English improve, too.

Through these experience, I want to study English more and communicate with foreign people in the future.

Thank you, Berlitz teachers!!!

## Kibi Autumn Adventure

Celina Noto

On October 17, we went to National Kibi Youth Outdoor Learning Center, and had an English event, Kibi Autumn Adventure. To prevent infection from COVID-19, we couldn't stay overnight, but we enjoyed ourselves very much.

First, our group, team C, had an activity "Out and About" instructed by Brett and Kris. Brett made us laugh with his unique gestures. Next, we went to the gym to take part in an activity "Sport". Paul and Justine taught us how to play Australian dodgeball. It was a little difficult, but a lot of fun.

After that, we had lunch. I enjoyed eating lunch with my friends.

In Session 3, we had an activity "School". Jordan and Chris gave us two kinds of activities, "Word Jumble Race" and "Jeopardy". We made many words with a limited number of vowels and consonants. "Jeopardy" was a kind of quiz game. I could answer many questions. It was also a lot of fun.

The fourth activity, "Home," was instructed by Scott and Fumie. We learned the names of all kinds of rooms in a house, and answered questions



about them.

After we finished all of the activities, we gathered in a square outside to have the closing ceremony. Before the ceremony, we had a snack there. It was really good. At the end of the closing ceremony, the top three teams were announced. To my regret, team C, our group, didn't win the competition.

Thanks to this event, I really enjoyed talking to people from foreign countries and playing different kinds of games. I can't wait to go to Australia the year after next!!!

## What I learned from Kibi Autumn Adventure

Sakurako Sezaki

We went to National Kibi Youth Outdoor Learning Center, and enjoyed many things there.

The first activity I really enjoyed was "Sentence Charades." It was a very difficult game, but we tried our best not only with easy words but also gestures. I was so glad when I was able to tell the correct sentence to my classmates.

The second one was "Word Jumble Race." The game was also really difficult, so we made full use of our knowledge with the help of our dictionaries.

The third one was "Tunnel Ball." We all helped each other to carry a ball as fast as possible. I realized that it is important to cooperate with each other in anything.

The fourth one was "The Organizer's Dilemma." I ran about here and there to find words. It was a lot of fun!!!

I think I've got ready to go to Australia. I'm looking forward to joining the school excursion in 2023.

## After Kibi Autumn Adventure

Maho Kondo

Looking back on this event, I found that I learned a lot.

I was very happy that thanks to the very kind Berlitz instructors, I was able to speak English without feeling nervous. The activities and games they had prepared for us were a lot of fun, and we really enjoyed learning and speaking English.

Of course, I know I still can't speak English well. As Mr. Yamaji said, I also regret I was not able to speak English more fluently. I'll make a big effort, driven by this regret, in order to make the school excursion to Australia more meaningful.

Now I'm really grateful to all of the teachers of Konko Gakuen and the instructors from Berlitz for organizing this event. Thank you so much!!!



# 中学 体育会



## 体育会を終えて

1年1組 板倉 葵海

「ふう……」私は、深呼吸をして自分を落ち着かせた。私が出場する種目は4×100mのリレーだった。体育会の最後に行われる種目でもあり、どの学年も盛り上がっていた。

リレーが始まる前、1組テント下で皆から「リレー頑張ってる！」や「絶対1位になってよ!!」など激励をもらった。私はずっとみんなからの期待の音が痛かった。

クラス対抗の競技では1組が4位になつたので、その焦りもあつたのだろう。とても不安で仕方がなかった。足を引つ張らないように頑張らなきゃとマイナスイメージになつていった。同じリレーメンバリーの佐藤さん、山田さん、坪井さんに「頑張ろうな！」と声をかけ、不安な気持ちのまま自分の召集場所に行った。

先輩や先生方の指示の下、自分のスタート位置について。私は一走だったので、先輩からバトンを受け取りスタプロをセットし、横にいた2組の子に「頑張ろ！」と言い、陸上部の先輩が近くにいたので全力で手を振って、クラウチング

スタートの姿勢を取った。

「ふう……」私は、深呼吸をして自分を落ち着かせた。

「パン!!」スターターのピストルの音と同時に私は駆け出した。あのとき自分が何を考えてたのか全く覚えていないが、まっすぐ前だけ見て2位と差を開け、次の人にバトンをパスし、自分の役目を果たすことができた。二走と三走のバトンの受け渡し失敗し、抜かされて2位になったが、最後1組のアンカーが巻き返し、1位でゴールすることができた。



先生方には本当に感謝している。

## 同心協力

1年2組 磯崎 唯愛

初めての体育会。コロナ禍の中で開催できた喜びはとても大きかった。ただ無観客という寂しさもあったが、みんなと協力した体育会はとても心に残っている。一人一人がそれぞれの競技に一生懸命挑む姿がとても輝いて見えた。先輩方の応援はとてもかっこよく、憧れが強くなった。優しく、素敵な先輩方のように私もなりたくて強く心に思った。先輩方の姿は、本当に憧れそのものだ。

私は練習中に腰痛になり、コルセットをはめて挑んだ。長縄を一生懸命回した。みんなと力を合わせられたことがとても嬉しかった。綱引きは補欠として参加したが、相手が強かった。負けた悔しさもあるが、勝ち負け関係なく協力し、心一つにすることの大切さを学んだ。

私は「兄弟学級」という呼び方がとても印象的で、すごく心に残っている。なぜなら、他人同士であっても兄弟のように強い絆で結ばれ、年齢関係なくお互いを思いやることや支え合うような意味を



もつていると感じたからだ。学園の合言葉である「人をたいせつに」にあたりと感じた。体育会では、人と人の繋がりや、相手を思いやる心、手と手を取り合

い、支え合うことの大切さを学んだ。困っている人がいれば声を掛けて励まし、嬉しいことはみんなでの喜びを分かち合う気持ちも学んだ。そしてコロナ禍で大変な中でも、陰でサポートしてくださっている方々がいるということも忘れてはいけないと思った。

「同心協力」。心一つにして、みんなと力を合わせて物事に取り組むこと。学校生活において、一人一人性格も感じることでも違うけれど、協調性を大切に、学校という社会の中でだけでも協力し、力を合わせていかなければいけないと改めて思った。

代々引き継がれてきた学園の合言葉を胸に、学園生として恥じぬ行動をとり、「物・人・自分」を大切にすることの大切さを教わった体育会になった。

## すべてを+（プラス）に

2年1組 矢野 心陽

私が体育会を終えて心に残っていることは、1組が総合優勝したことだ。今年度は兄弟学級で応援合戦をすることはなく、他の学年と関わりが少なくなり、総合優勝できるかわからなかったが、3年生から1年生まで協力して頑張ることができたと思う。2つ目はリレーだ。4人でたくさん話し合って、いろいろな作戦を立てた。正直なところ、勝ちたいという気持ちが大きく、直前まで緊張していた。しかし4人で「楽しもう」と決め、しっかりと楽しむことができた。今回の4人だったからこそ、自分の精一杯の走りができ、4人で1位をとることができたと思つた。そして長縄跳びでは、自分たちの納得する結果ではなかったかもしれないが、練習よりよい長縄跳びができたと思つた。今回の体育会は本当に困難な中で行われたが、だからこそ体験できたこ

ともあった。すべてをー(マイナス)に考えるのではなく+(プラス)に考えることにより、たくさんの良い思い出ができた。来年私たちが3年生になり、大変なことが多いと思うが、学年のみんなやクラスのみんなとたくさん協力して、今回の体育会上に楽しみたいと思う。今年はまだ困難な状況は変わらないので、クラスみんなでできることを精一杯して、最高の2年生生活を送りたい。本当にいろんな人に感謝する体育会だった。

## コロナ禍での体育会

### 2年2組 板野 匠

今年の体育会は去年とは全く違った。去年は応援合戦があり、観客も大勢いた。緊急事態宣言から蔓延防止重点措置に移行となった今年は応援合戦がなくなり、無観客での開催となった。一方で、一時は開催すら危ぶまれていたのだから、できたことに感謝したいと思う。「出来ないことを並べても仕方がない」という言葉にはとても共感した。出来ないものはしようがないのだから、出来ることを全力でやるのが大切なのだと気づかされた。僕が今年の体育会を通して思った



ことが3つある。まずは先ほども述べたように開催できたことだ。先輩、先生、事務局、実行委員、係の仲間などと一緒にできたことは本当に幸せだった。2つ目は、応援合戦はなくなったが、ものすごい「絆」を感じたことだ。先輩や後輩など関係なく、互いに応援し励まし合う姿を目の当たりにして、体育会を開催できて本当によかったと思えた。最後に片付けだ。何気ないようで、1番仲間と協力できたと思う。一人一人が自分の担当する片付けをして、自分のことが終われば周りに目を配り、協力する姿勢は本当に素晴らしかった。椅子を運んでいると「手伝おうか」と声をかけてくれたりした。僕は来年度最高学年になる。このような何気ない声かけを当たり前にできるようにになりたい。そして、友達とのさらなる「つながり」を築いていきたい

と思う。

## たくさんのありがとう

### 3年2組 妹尾 侑佳

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で昨年よりも縮小された体育会。そんな中でも最高の思い出になった。最初のありがとうは先生方へ。ほつま祭を中止しなければならなかった中で、なんとか体育会へとやらせていただいた。また、体育会の運営では何度も会議をして、係仕事、クラスの応援など本当に色々なことをしていただいた。

2つ目のありがとうは生徒会へ。ほぼ毎日最終下校時刻まで残って応援の方法や感染症対策など考えていた。日々頑張つて、改善していった結果、私たちが始める体育会になったと思う。体育会が始まる前から動き、少しでも生徒のためになるように頑張っていた会長を初めてする生徒会に本当に感謝している。

3つ目は、各2組へ。3年2組は何事も全力で盛り上げる天才だと思う。2組の副チアとしていられて本当に楽しかった。準備から本番まで笑顔の絶えない2組だった！1年、2年2組のみんなは、



応援合戦がなくなった中でも3年生を先輩だと思つて競技の応援をしてくれた。3学年合わせて、最高の2組！

最後は2組幹部へのありがとう。応援合戦ができないと聞いたときは悔しくて、それまでの頑張りが無駄になると思つて、コロナを恨んだと思う。それでも幹部として前に立ち、笑顔で引つ張っていた姿は本当にすごい。「光のように輝いて颯爽と駆け抜ける。輝く泡がたくさん集まって一つの大きな泡になるように」と付けられた「洗化颯爽〜Like Shiny Bubbles〜」。幹部がいたから一つになった体育会だった。

コロナに負けない笑顔と燃える心があつた体育会だった！本当にありがとうしかない。

## スポーツの楽しさ

### 3年3組 西 和史

今回の体育会で2つのことを体で感じ、学んだ。それは、現実の「厳しさ」と「美しさ」だ。

僕は長縄と四〇〇メートルリレーに出場した。長縄の結果は69回だった。授業の練習で、初め、35回しか跳べていなかった僕達Aチームが、本番、ベスト記録を出せたことはとても嬉しかった。しかし、それ以上に、四〇〇メートルリレーが印象的だった。

今年、初めて出場することができた僕は、バトンパスに苦戦した。小学校のころのそれとはものが違った。初めての練習ではバトンと落とし、自分は転び、すり傷を負う程だった。だから、チームの3人にもらい方のコツ等を教えてもらったり、練習に付き合ってもらったりした。結果、3人のおかげでスムーズにバトンがつながるようになった。何度も練習してもらった。バトンをつないだ。なのに本番、僕は詰まらせてしまった。緊張で足も回らなかった。何とか順位をキープすることはできたが、1位に引き離されてしまい結果は3位となってしまった。

走る前に僕は何度も自分を落ち着かせようとした。それでも一向に心拍数は下がらなかった。僕は、いつも、本番はやる気だけで、練習程の技術は引き出せない。そして、それでは十数秒の世界は何も変わらなかった。それなのに走り終わった後、僕の視界は妙に広く、澄みわたつて見えていた。体は重いのに、結果は良くなかったのに、気分は良かった。体育会の開催目的は、体を動かして体力をつけ、体を動かす楽しさを感じることだと思ふ。僕はその楽しさを間違いなく感じた。悔しさの中に楽しいという感情が湧いてくるのはとても美しい事だと思ふ。





# 生徒入賞作品

## ▼第67回青少年読書感想文 岡山県コンクール 優秀賞

私は私らしく

高1 山口奈津美

自分は自分。私はこの言葉をあまり使ったことがない。使えないと言った方が適しているだろう。私はいつも自分の意見より他の人の意見を優先させてしまう。なぜなら、他の人はどう思うだろうと気になってしまったり、自分の意見が人と違っていると恥ずかしいと思ったりするからだ。どうすれば自分の意見に自信をもって言えるようになるのかと悩んでいた時、この本に出会った。

この本は手芸が好きな清澄が主人公である。かわいいものが嫌いな姉の水青。母親に適さず、さつ子と離婚した全。ある日、清澄が結婚する水青のために、ウエディングドレスを作ることになる。ドレスを作っていく間に、登場人物一人一人が自分自身について考え直して

いく物語である。

特に印象的だったのはおばあちゃんと母のさつ子が居酒屋で話をする場面である。おばあちゃんは母親らしい、ものわがりのいい人だ。おばあちゃんと対照的な人物がさつ子である。さつ子は子どもに対して「無条件に」「無償の」愛を注ぐことができない母親である。しかし子どもたちに無関心でいたくないと思っている。そのため清澄が将来、好きな手芸で仕事についても、生きていけなくなるのが心配で、清澄が刺繍をしたり、女性の衣服に興味をもったりすることを嫌がっている。おばあちゃんはそのようなさつ子に対し、「たしかに、食べていかれへんかもしれん」「わたしはそれを人生の失敗やとは思わへんけど、それを失敗って言うんなら、あの子には失敗する権利があるんちゃうの？」と話す。

前向きに考えるおばあちゃんの姿勢がかっこいいと思った。他の人に意見を左右されることなく、自分で意思決定をして行動することで自分の人生を選んでいく。自分で選択して、失敗することがあったとしても、失敗した経験が今後に生かせる。だから失敗を恐

れず、全員にある「失敗する権利」を使うべきだ。自分で決めることが人生で一番大切なことだと教えられた場面であった。

ウエディングドレスが完成に近づいた時、清澄は縫製工場の会社で全の友人である黒田からホワイトワークをしてはどうかとアドバイスをもらう。ホワイトワークとは白い布に白い糸で刺繍することだ。清澄は刺繍が特に大好きなのでホワイトワークをすることにしたがなかなか図案が思いつかなかった。苦戦している時、清澄は全がつけてくれた自分の名前の由来を思い出す。流れる水は決して淀まない、常に清らかで澄んでいるものだ。清澄という名前には生きていく中で困難がたくさんあるが、流れる水のように動き続けてほしいという全の父親としての願いが込められているのであった。

私はなんてすてきな名前だろうと思っただ。私は流れている水に対して興味をもって見たことが一度もない。ただ眺めているだけで、単なる風景の一部だった。しかし、流れる水は流れ続けてこの先もずっと停滞しないものだと考えると、流れる水は人間のように自分の

意思を通す力があるからこそ存在するのだと感心した。私も流れる水のようにずっと自分らしく進み続けたいと強く思った。

清澄は流れる水をホワイトワークとしてドレスに刺繍することにした。最後のひと針を刺し終えた時、清澄は呆然とする。そして、姉が喜ぶ姿を見て涙を流す。

自分の好きなことで人を笑顔にする。それは生きていく中で最も難しいことだと私は思う。自分の好きなことを続けていこうとすると、必ず苦しみやつらさを経験する。だからこそ、困難に耐え抜いてやっと思えることのできた人の喜ぶ姿は、今までの自分の選択は間違っていないかと思わせてくれた。人はこの上ない幸せを感じるだろう。

清澄はこの本の初めから終わりまで、好きな手芸を母やクラスメイトに何を言われても続けていた。「好きじゃないものを好きなふりをする必要はない」という清澄の言葉を讀んだ時、同じ年齢だが、自分の意志を強くもつところに憧れた。私は周りの意見にそろえておこうという考えはやめて、清澄のように自分の意見をはっきりと言える人

になりたいと思った。もし周りに流されそうになってもこの本を思い出して、「自分は自分」と心の中で呟き、自分の嘘をつくことはやめようと思う。周りの人が自らの意見を発言できるようにになればもつとよい。しかし互いに自分が思うことを言い合うことが当たり前になる環境になると、意見の対立が頻繁に起こることになるだろう。そのような

時には、互いの良いところと悪いところをうまく補い合いながらよりよいものにしていけばよい。そして、個性豊かで、多様性のある、誰もが幸せを感じて生きていけるような世界になることを私は強く望む。そのためにも、まずは私が失敗を恐れずに自分らしさを大切にして、停滞しない水のように日々、生活していこうと思う。

### 入賞おめでとう

#### ▼中学 第67回青少年読書感想文岡山

県コンクール

(課題読書)

入選

中3

栗元

涼

佳作

中1

草薙

涼介

(指定読書)

入選

中2

濱田

健太

佳作

中2

鈴木

和志

中3

妹尾

侑佳

(自由読書)

佳作

中3

妹尾

侑佳

#### ▼令和3年度JA共済岡山県小・中学

生書道コンクール

佳作

入選

中2

金光

奏一

中1

山田

桃実

中1

石井

遥菜

中1

内村

紗英子

中2

西山

和志

金光ライオンズクラブ国際平和ボス

タイコンテスト

最優秀賞

優秀賞

中1

小川

聡太

中2

草薙

涼太

中2

木村

長閑

第13回浅口市長杯中学生英語スピーチコンテスト

創作部

優勝

中3

吉田

莉情

第19回永瀬清子賞

佳作

奨励賞

中1

兼尾

若奈

中2

木村

亮瑛

今井真那花

# 会報

令和3年度2学期も、なお新型コロナウイルス感染症の影響が続いたものの、徐々に収束への兆しが見え始め、やつなみ保護者会の校内での活動は、8月27日から中止されていたものを、対策をとった上で10月1日から再開された。

**第2回評議員会** 8月27日(金)開催  
 予定の評議員会は、新型コロナウイルス感染症再拡大のために中止され書面協議となった。

**やつなみ保護者会地区会** 今年度は、10月に全23地区の中、5地区で地区会を開催した。

**オープンスクール** 今年度は8月28日(土)のオープンスクールはオンラインとなったため、三役のお手伝いはなかった。  
**友愛セール** 今年度ほつま祭が中止されたため、友愛セールは金光ベアの予約販売のみをオンラインで実施し、手作り作品の販売の大きな成果を残した。(収

支決算については別項参照)  
**金光教大祭奉仕** 10月3・7・10日の3日間に行われた生神金光大神大祭に役員が奉仕した。また、12月12日に行われた布教功労者報徳祭にも役員が奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々の接待奉仕をして大変感謝された。

**第3回評議員会** 11月24日(水)の評議員会は、研修・出張報告の後、各専門部の活動内容の総括と報告、金光教大祭奉仕、教員診断のお願い等について協議した。

## 諸会合

- 8月25日 全国高P連島根大会。オンライン。小野会長、大目副会長、初村副会長参加。
- 10月14日 幼小中P指導者研修会。オンライン。北村副会長参加。
- 11月16日 日本私立小中高保護者会連合会臨時総会・青少年育成研修会。小野会長参加。
- 11月19日 県高P連指導者研修会。木村監事参加。

## 生徒会活動

**《中学生徒会》** 9月11日(土)12日(日)に開催を予定していたほつま祭は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、無観客・午前中での実施となった。また、例年中学3年生を中心に取り組み応援合戦においても事前の取り組みにおいて、十分な感染症対策を実施することが難しいため中止となったものの、各種目や応援時の感染症対策を実施しながら、競技を中心とした体育会を実施した。全力で競技に取り組み姿がとても印象的な体育会となった。

10月27日(水)には、6月に予定していた球技大会を実施することができた。少し肌寒いなかでの開催ではあったが、心待ちにしていた球技大会を思いっきり楽しむことができた。

**《高校生徒会》** 9月16日(木)に高校体育会が開催された。前日までの悪天候で開催が危ぶまれたが、当日は天候にも恵まれ開催することが出来た。今年度は半日開催と初めての形式だったが、様々な競技で熱戦が繰り広げられ、黄ブロック(2年3・4・5・7組)が優勝、紫ブロック(1年1・2・3組)が第2位、緑ブロック(1年4・5組)が第3位となった。

予定されていた10月19日(火)に1年生・2年生で秋季球技大会を実施した。肌寒い気候であったが、ソフトボール、フットサル、ドッジボール、ティーボールの4種目が行われ、みんなが伸び伸びと熱戦を繰り広げた。

**《天文部》** 金曜日の活動日には中学棟屋上で小型望遠鏡を組み立てる、天文台で太陽観察を行うなどの活動を行った。中学1年生は、11月13日のほつま祭代替行事でほつま祭に向けて活動していた成果を発表することができた。

**《書道部》** 部員一同、様々なコンテストに積極的に応募している。以下結果報告。「第43回ふれあい書道展」(筆都大賞)中3大塚萌衣(特選)中1石井遙菜(奨励

## 【R3年度 友愛セール 決算報告】

|    |                    |         |
|----|--------------------|---------|
| 収入 | 予約販売売上             | 331,500 |
|    | 友愛セール売上追加、寄付等 ※1   | 54,000  |
|    | 合計                 | 385,500 |
| 支出 | 手作り作品材料他諸経費        | 90,745  |
|    | 友愛セール用物品購入費        | 0       |
|    | 合計                 | 90,745  |
| 収支 | (収入-支出)            | 294,755 |
| 使途 | 赤十字事業資金へ ※2        | 20,000  |
|    | 社会福祉会歳末(歳末助け合い) ※2 | 50,000  |
|    | 公益財団法人日本ユニセフ協会へ    | 3,000   |
|    | 合計                 | 73,000  |
| 残高 |                    | 221,755 |

※1 福山第4A地区からの寄付 30,000  
 ※1 予約販売の追加売上 24,000  
 ※2 例年寄付をさせていただいている団体

る「ぞうきん」を集める『ぞうきんプロジェクト』に参加した。チラシとポスターを作成して、中学生、高校生、教職員全員に案内した。多くの方々の協力で集まったぞうきんを、11月30日に同団体に直接届けた。

《茶道部》 毎週木曜日にお点前の練習に取り組んだ。また、11月11日（木）には炬開きを行った。

《写真部》 第28回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2021」に作品を応募した。残念ながら入賞には至らなかったが、今後も技術を磨いていきたい。

《中・高新聞部》 中・高それぞれの体育会で結果報告新聞を作成し、発行した。11月12日（金）の創立記念式では、講演者の井上全悠選手に単独インタビューを行った。12月3日（金）にはほつま新聞3月号の記事として「さん太しんぶん館」に取材に行った。

《生物部》 学校前の新川の生物調査を行った。500円玉くらいのミシシippアカミミガメの赤ちゃんや、アメリカザリガニ、メダカ、ドジョウなどと出会うことができた。

《科学部》 毎週水曜日と金曜日に、興味

を持った内容について調べ、試行錯誤しながら楽しく実験を行った。中学1年生は、11月13日のほつま祭代替行事で日頃の活動の成果を披露することができた。

《電気科学部》 10月3日（日）岡山一宮高校でオンラインによるWROの全国大会が行われ、中学3年栗元・川崎の「DYNAMICS」がオープンカテゴリーミドル・ジュニア部門へ出場した。新型コロナウイルスの影響で例年8月末に行われていた仁科ロボコンが、今年はビデオ審査となり、締め切りも10月30日となった。中学2チーム・高校2チームが参加し、そのうち高2チームが「チャレンジ賞」になることができた。中学では11月14日岡山大学教育学部附属中学校でおこなわれた「創造アイデアロボットコンテスト岡山大会」に基礎部門で2チーム参加したが、入賞することはできなかった。

《ダンス部》 11月13日（土）120記念館大講義室でメタセコイヤの会総会のキラキラステージに出演し、学年別とグループごとのダンスを披露した。10月29日（金）には音楽部吹奏楽団とコラボレーションをし、やつなみ広場で動画撮影を行った。ほつま祭が開催されず、発表の機会がな

かなかかったが、普段とは違う場で披露することができた。

《音楽部吹奏楽団》 2学期は予定していた「ほつま祭」が中止になってしまったため、9月は演奏機会がなく終わってしまった。10月29日（金）には、ダンス部とのコラボ動画を撮影し、「群青」を演奏した。11月13日（土）メタセコイヤの会総会にて「上を向いて歩こう」「世界中の誰よりきつと」「オーメンズ・オブ・ラブ」を演奏した。11月14日（日）「オータムコンサート」を開催した。「晴れた日に」「上を向いて歩こう」「世界中の誰よりきつと」「オーメンズ・オブ・ラブ」「群青」、中学1年生による「RPG」を演奏した。その他、公式SNSで日頃の活動の発信を行った。

《音楽部コーラス》 8月6日（金）和歌山市民会館で開催された全国高等学校総合文化祭和歌山大会に出演した。前日は交流会が催され、コロナ禍でしばらくなかった他校との交流が対面で開催されたことはとても意義深かった。また、当日のステージもお互いに聞くことができ、大きな学びとなった。【曲目】「異聞・うらじゃ」「にんげんっていいな」

9月のほつま祭は中止となった。

11月13日（土）120記念館大講義室でメタセコイヤの会総会のキラキラステージに出演した。8月以来の本番で少し緊張気味であったが、新入部員も含め精一杯練習の成果を発揮することができた【曲目】「スーパーカーリフラジリスティックエクスピアリドーシヤス」「サポテンの花」「ハナミズキ」「異聞・うらじゃ」「にんげん」

《中・高放送部》 中学・高校ともに9月に行われた体育会で放送係を務め、臨場感あふれるアナウンスで、会場の雰囲気を感じ上げた。また、高3の岡邊こむぎと原田珠希は、11月に開催された創立127年記念式の記念講演（講師はパラリンピック出場の前上全悠氏）で司会・インタビュアーとしての役割をしっかりと果たした。

《美術部》 週3回、120記念館の美術教室でそれぞれ作品制作を行った。

《美術部》 ほつま祭ポスター原画に使用する作品の制作に部全体で取り組み、投票によって高2黒住彩羽の作品を選んだ。来年2月に行われる岡山県高校美術展に向けて、個人作品の制作に励んだ。

《文芸部》 8月に高文連文芸部会が主催

する「高校生文芸道場おかやま」に出品し、散文部門で高3栗原万由子が優秀賞を受賞、井口葉が入選となった。同作品は9月に「高校生文芸道場中国ブロック大会」に出品し、栗原万由子が優秀賞を受賞した。今年度はほつま祭が中止になったが、3年ぶりに文芸誌「楳柘火」を制作し、中高図書室で配付した。その他には、月ごとにテーマを設けて小説を執筆した。作品は月例集にまとめ、批評会を行うことで互いに研鑽を積んだ。

《軽音楽部》 3学期に部内で発表会を行う予定。それに向けて練習を頑張っている。

《高陸上競技部》

【全国大会】

全国高等学校総合体育大会が福井県で開催され、安福柘汰が100mと110mハードルに参加した。

【県大会】

岡山県高等学校陸上競技選手権大会が開催され、西森翔真が三段跳で優勝した。岡山県高等学校新人陸上大会が開催され、六原未智が三段跳で7位に入賞した。

《中陸上競技部》

【全国大会】

全国中学校総合体育大会が茨城県で開

催され、400mリレーに瀧本椰々子・佐藤地央・水流和々花・爲房百恵・伊藤瑞が参加した。

【中国大会】

中国中学校陸上大会が山口県で開催され、1年100mで瀧本椰々子が2位。佐藤地央が3位。水流和々花が7位。瀧本・佐藤・水流・爲房が400mリレーが3位に入賞した。中国5県陸上大会が広島県で開催され、400mリレーに水流和々花・瀧本椰々子・伊藤瑞・佐藤地央の1年生メンバーで参加した。

【県大会】

岡山県中学校秋季陸上記録会が開催され、爲房百恵が2年100mで4位。瀧本椰々子が1年100mで1位。水流和々花が100mで2位、共通400mで4位。佐藤地央が共通走幅跳で1位。瀧本・佐藤・水流・爲房が400mリレーで岡山県選抜チームに続いて2位に入賞した。

岡山県秋季陸上大会（新人戦）が開催され、女子の部で総合優勝した。個人では爲房百恵が共通走幅跳で4位。佐藤地央が共通走幅跳で1位、1年100mで2位。瀧本椰々子が1年100mで1位、共通200mで1位。水流和々花が1年100mで3位、

共通200mで2位。水流・佐藤・爲房・瀧本が400mリレー1位に入賞した。

《ラグビー部》 9月25日(土)に行われた岡山県高等学校ラグビー選手権大会に岡山城東・岡山一宮・津山高専との合同チームで参加した。1回戦で玉島に15-19で敗れた。11月6日(土)に行われた全国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会に岡山城東・岡山一宮・高松農業との合同チームで参加した。1回戦で関西に0-55で敗れた。

《中男子ソフトテニス部》 2年生15名、1年生11名の総勢26名で新チームのスタートを切った。

7月31日(土)に第31回チャレンジカップが行われ、1年の部で横溝・定金ペアが準優勝となった。8月7日(土)に第31回福山市ポーツ少年団中学生ソフトテニス交歓大会1・2年生の部で2年金光・梁原ペアが優勝、2年天野・桑田ペアが2位、1年横溝・定金ペアが3位となった。10月2日(土)・3日(日)に岡山県中学校秋季ソフトテニス大会備南西地区予選会が行われ、2年金光・梁原ペアが準優勝し県大会への出場権を獲得した。11月7日(日)に岡山県中学校秋季ソフト

テニス大会が行われ、2年金光・梁原ペアが3回戦敗退であった。

《中女子ソフトテニス部》 6月、備南西地区総合体育大会(ソフトテニス競技)の個人戦は、中3安藤・谷野ペアが3回戦敗退、中3中村・土江ペア、中2石原・藤井ペア、難波・大島ペア、田村・坪井ペアが2回戦敗退であった。また団体戦は、鴨方中に1-2、金光中に2-1の1勝1敗で、予選敗退であった。

8月、第31回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会(個人)では、I部で中2石原・藤井ペア、難波・大島ペア、田村・坪井ペアともに初戦敗退、II部で中1萩原・川手ペア、亀山・渡邊ペア、猪股・青木ペア、OP・坪井ペアともに予選敗退であった。

10月、備南西地区秋季体育大会(ソフトテニス競技)個人戦では、石原・藤井ペアが3回戦敗退、難波・大島ペア、田村・坪井ペア、萩原・川手ペア、坪井・小坂ペアが2回戦敗退、亀山・渡邊ペアが1回戦敗退。団体戦は、小北中に0-3、金浦中に1-2で予選敗退であった。11月、第32回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会(個人)で

は、I部で石原・藤井ペア、田村・坪井ペアが予選敗退、II部で萩原・川手ペア、猪股・小坂ペアが予選敗退であった。

《高女子ソフトテニス部》 8月4日・5日に備前テニスセンターで行われた岡山県高体連ソフトテニス専門部主催の第43回岡山県高校ソフトテニス交流大会に2ペアが参加した。8月21日・22日に福田公園テニスコートで行われる予定の高梁川流域高校ソフトテニス大会《個人・団体》にエントリーしていたが、緊急事態宣言の発出により大会は中止となった。

9月18日・19日に玉島の森テニスコートで行われた岡山県高校新人大会備西地区予選《ダブルス》に2ペアが出場し、金田・河田ペアは1回戦で敗退したが、松田・岡田ペアが矢掛高校・笠岡商業・笠岡高校のペアに勝って、ベスト4に進出。準決勝・3位決定戦で玉島商業のペアに敗れたものの、備西地区4位で県大会出場権を獲得した。11月6日に浦安総合公園テニスコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会《団体》には2ペアで参加し、2回戦で岡山城東高校に敗れた。11月13日に福田公園テニスコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大

会《ダブルス》に松田・岡田ペアが出場し、2回戦で倉敷古城池高校のペアに敗れた。

《中卓球部》 7月26、27日に岡山県総体に出場した。男子団体では東山に3-0、岡大附属に3-1、決勝リーグで京山に3-1、中道に3-2、倉敷福田に3-1、総社東に1-3、石井に1-3で3位に入賞した。男子シングルスでは白神(L3)がベスト8に入り、中国大会の出場権を獲得した。また、金子(L3)と藤井(L3)が2回戦に進出した。女子シングルスでは藤原(L1)が2回戦に進出した。

8月8日に中国大会に出場した。男子シングルスで白神が松徳学院(鳥根)に2-3、後藤ヶ丘(鳥取)に3-0の1勝1敗で予選リーグ2位であった。

8月10日にカデットシングルス大会に参加した。女子14歳以下2部で藤原がベスト8に入った。

8月12日にカデットダブルス大会に参加した。

10月2、3日に備南西地区秋季卓球大会に出場した。男子シングルスでは中藤(L2)がベスト32に入った。女子シングルスでは藤原が優勝し、県大会の出場

権を獲得した。男子団体では芳井に3-0、鴨方に0-3、笠岡西に3-2、木之子に0-3、大島に0-3、井原に3-0、金浦に3-2の結果9位であった。

女子団体では神島外に1-3、里庄に1-3、鴨方に1-3、芳井に1-3、井原に2-3の結果7位であった。

11月6-8日に岡山県秋季卓球大会に出場した。女子シングルスで藤原がベスト32に入った。

11月13日に総社市長杯に参加した。女子シングルスで藤原がベスト16に入った。

《高卓球部》 8月1日-2日、倉敷市長杯に参加し、男子団体Aチーム(メンバーはU2難波・U1光田舜、藤井)が5位入賞、個人戦では藤井、光田舜がベスト16に入った。

8月4日、県高校学年別卓球大会にて高1の部で光田隆がベスト16に入った。

8月18日-19日、県高校秋季大会(団体戦)に参加(メンバーはU2難波・小野・白石、U1榎田・藤井・光田舜・光田隆)した。予選リーグ1位で決勝トナメントに進出し、2回戦岡山朝日高校に3-0で勝ち、3回戦では倉敷工業に1-3で敗れたが、9-12位決定戦で玉

島高校に3-0で勝ち、新人戦のシード権を獲得した。

10月30日-31日(午前)、県高校新人卓球大会(団体戦)に参加した。2回戦倉敷高校に3-1で勝ち、3回戦で岡山東商に2-3で敗れ、9-12位決定リーグに回った。リーグ戦では、興陽高校に3-1で勝ち、津山高に0-3で敗れた後、最終戦は岡山工業に3-1で勝ち、シード権を死守した。

10月31日(午後)・11月3日に全日本ジュニア予選に参加し、U2難波、U1光田舜がベスト64に入った。

《中野球部》 7月25日から行われた令和3年度岡山県総合体育大会では、1回戦倉敷北中学校に8-7。2回戦勝山中学校にタイブレークの末5-3で勝利し、準々決勝では、多津美中学校に2-1で勝利し、3年ぶり3回目の中国大会出場を決めた。続く準決勝では、総社中学校にタイブレークの末8-9で敗れ3位となった。

7月31日、8月1日に総社球場で行われた総社市長杯では、1回戦山田・八浜・東見中学校に4-2。準決勝では、総社西中学校に7-6で勝利し、9年ぶりに

決勝へコマを進めた。決勝では、県総体の準決勝で敗れた総社中学校に2-0で勝利し、初優勝を飾った。

8月5日に倉敷マスカットスタジアムで行われた中国中学校軟式野球選手権大会では、1回戦で全中に出場した藤山中学校(山口県)に3-5で敗れた。

新チームとなり、9月11、12日に奥市球場などで行われた第14回全日本春季軟式野球大会岡山県予選会では、2回戦高梁中学校に延長9回タイブレークの末1-0のサヨナラで勝利したが、準決勝でオール井原アローズに1-3で敗れ、岡山県3位に終わった。

10月3日にどんぐり球場で行われた備南西地区秋季大会では、2回戦里庄・小北中学校に2-3で敗れ10年ぶりに県大会出場を逃した。

11月20・21日に玉島の森野球場などで行われた第22回玉浅良寛杯中学校野球大会では、1回戦玉島東・黒崎中学校に7-2。準決勝玉島北中学校に7-0で勝利し、決勝戦では、玉島西中学校に7-2で勝利し、4年ぶり11回目の優勝を飾った。最優秀選手賞に河本直樹が、打撃賞に土屋晴輝が選出された。

《高野球部》 7月10日より開幕した第103回全国高等学校野球選手権岡山大会は、1回戦で倉敷鷺羽高校に4対2で勝利したが、2回戦で岡山東商業高校に3対5で敗れた。

新チームになり、8月29日から秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が行われた。初戦の興譲館高校に1対4で敗れたが、次戦の倉敷高校戦は5対2で勝利し、ブロック2位となり代表決定戦に進んだ。倉敷青陵高校戦は2対1で勝利したが、倉敷天城高校戦で、3対2で敗れ、予選敗退となった。

11月には岡山県高等学校野球1年生大会が行われ、1回戦で倉敷青陵・倉敷南・岡山高校合同チームに3対1で勝利した。2回戦も、岡山高校に5対3で勝利した。3回戦は玉野光南高校に8対5で敗れ、ベスト8での敗退となった。

《中男子バスケットボール部》 6月19、20日に備南西地区総合体育大会(バスケットボール競技の部)が金光学園で行われた。1回戦では、矢掛中学校と対戦し37-65で勝利、続く2回戦では、笠岡東中学校と対戦し30-58で勝利し、翌日の決勝へ進出した。決勝では、鴨方中学校と

対戦し50-45で敗れ、準優勝となり県大会への出場を逃した。

10月2、3日に備南西地区秋季新人大会(バスケットボール競技の部)が天草運動公園体育館で行われた。1回戦では、鴨方中学校と対戦し30-56で勝利し、翌日の決勝戦では、笠岡東中学校と対戦し32-42で勝利し本大会を優勝し、11月に行われる県大会への出場を決めた。

11月7、8日に岡山県中学校秋季体育大会バスケットボール競技が美咲町中央運動公園を中心に行われた。1回戦では、旭東中学校と対戦し55-41で敗れた。

《中女子バスケットボール部》 10月2、3日に備南西地区中学校新人体育大会(バスケットボール競技の部)が天草運動公園体育館で行われた。1回戦では、井原中学校と対戦し24-29で勝利、続く準決勝では、笠岡東中学校と対戦し37-20で敗れ、県大会の出場を逃した。

《高男子バスケットボール部》 4月17、18日、24日に岡山県バスケットボール協会主催の県リーグが行われた。昨年度の新人戦の県5位・8位のチームでリーグ戦を行い、17日には新人戦5位の岡山学芸館高校と対戦し、73-76で勝利するも、

作陽高校(同6位)に92-86で敗れ、翌週に行われた倉敷工業(同7位)に71-69で敗れた。

5月28日から行われた岡山県高等学校総合体育大会バスケットボール競技の部に出場した。1回戦はシードとなり、迎えた初戦では東岡山工業と対戦し、52-67で勝利した。翌日行われた準々決勝では今大会で優勝した関西高校と対戦し、92-78で敗れ今大会をベスト8で終えた。

10月30日に第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会岡山県予選会が山陽町ふれあい公園総合体育館などで行われた。新チームとして迎えた初めての大会となった。1回戦では、東岡山工業高校と対戦し、75-64で敗れたものの、次に繋がる良い大会となった。

《高女子バスケットボール部》 9月18日、19日に開催されたWinter Cup 2021 第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会岡山備南地区予選会に出場し、1回戦岡山龍谷高校と対戦し28-77で勝ち、ブロック決勝へ進出。決勝で倉敷中央高校と対戦し、58-55で敗れた。

《中サッカー部》 10月2・3日に笠岡陸上競技場で地区大会が行われた。

1回戦は里庄・金光中学校に7対0で勝利、2回戦は鴨方中学校に0対8で敗北した。

《高サッカー部》 8月5日に西日本高校サッカーサマーフェスティバルに参加した。対岡山工業(0-2・0-4・2-0)。9月12日と9月19日に岡山県高校サッカー選手権大会二次トーナメントの1回戦、2回戦が行われた。対勝間田(不戦勝)、対津山東(0-0・延長0-1)。11月14日に玉島高校と練習試合を行った。(35分×3、20分)

《中剣道部》 《段級審査会》 11月3日(水)浅口市天草公園体育館で開催され、才野恵翔、山下劉(ともに3年)が初段に合格。(第16回浅口市剣道大会) 旧鴨方町剣道大会から通算で第60回となる記念大会。11月21日(日)浅口市天草公園体育館で開催され、才野、山下が男子個人試合に出場し、ともに1回戦敗退であった。

《高剣道部》 《岡山県新人大会》 11月6日(土) 7日(日) 津山総合体育館で開催され、浅野優斗(2年)が1回戦敗退であった。(男子個人試合は7日に行われた。)

《中・高剣道部共通》 11月12日(金) 金

光学園創立127年記念稽古会を本学剣道場で、記念式典(リモートにて)のあと、開催した。コロナ禍のなか、感染症対策ガイドライン等を遵守して、快い汗を流した。

《柔道部》 7月21日に岡山武道館で、令和3年度岡山県中学校総合体育大会柔道競技が行われた。男子個人戦では計3名が出場し、それぞれが善戦した。

10月2日に里庄武道館で、中学校備南西地区秋季大会が行われた。男子個人戦では計2名が出場し、73kg級で中1中井が3位となった。

11月6日に倉敷武道館で、第71回岡山県高等学校柔道優勝大会が行われた。男子個人戦では、計2名が出場し、それぞれが善戦した。

11月8日に倉敷武道館で、令和3年度岡山県中学校秋季柔道大会が行われた。男子個人戦では、中1中井が出場し、善戦した。

《少林寺拳法部》 7月30日(8月1日)に行われた令和3年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会(長野県立武道館)に、女子組演武の部で高3虫明紗桜理・難波日奈子が出場し、予選敗退で

あった。11月3日に行われた第32回岡山県高等学校少林寺拳法新人大会（岡山工業高校）で、男子自由単独演武で高2田淵春成が準優勝、高2友田隼咲が第6位に入賞し、両名は12月25日に広島県で行われる第3回中国高等学校少林寺拳法新人大会への出場権を、さらに田淵は、3月25～27日に香川県で行われる第25回全国高等学校少林寺拳法選抜大会への出場権を得た。

《バドミントン同好会》 毎週火曜日、小体育館で楽しく汗を流した。

《家庭科同好会》 ほつま祭展示に向け、高校3年生の部員3名が受験勉強の合間に、作品制作に取り組んだ。

《花道同好会》 毎週水曜日に宗教教室で平松先生の指導の下、熱心に稽古した。

《その他（水泳競技）》 7月10日、11日に倉敷市屋内水泳センターで行われた第59回岡山県中学校総合体育大会水泳競技の部に中1小川聡太が出場した。100m、200m平泳ぎで日頃の練習の成果を発揮し、200mでは6位と健闘した。

## 学園だより

サマーチャレンジ 7月28日～30日、特別進学クラス全員と総合進学クラスの希望者を対象にサマーチャレンジを実施した。3日間で集中的に発展的な学習に取り組んだ。

サマーイングリッシュビレッジ 8月2日～4日に初級を、5日～7日に中級を実施した。生徒10人に対して1人の割合で外国人講師がオールイングリッシュの授業を行った。

教職員夏季研修 8月18・19日、全教職員が参加して34回目の夏季研修が行われた。初日は中高に分かれて学習アプリの活用について情報共有を行った。また、スクールカウンセラー 安原こずえ先生の講演『不登校生の理解と関わり』を聴いた。2日目は初級と中級の2つのグループに分かれてICTスキルアップ研修を行った。実り多き研修会となった。

オープンスクール 8月28日、23回目

の一日入学がオンラインで行われ、小学生や中学生を合わせて350名の参加があった。授業体験や部活動紹介を通して、金光学園での生活の一部を楽しく体験した。

始業式 通学園内の複数の地域に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されたことを受け、当初の日程を延期し、8月30日、オンラインで2学期の始業式が行われた。校長式辞の後、養護教諭が感染症予防について注意を喚起した。

課題テスト 中学は8月31日～9月1日に、高1・2は8月30日～9月1日に、高3は8月30日にそれぞれ実施した。

教育実習 8月23日から9月26日の期間に卒業生7名が3週間の実習を行った。

高校体育会 9月16日、新型コロナウイルス感染症予防のため、規模を縮小して高校体育会が行われた。それぞれの競技でブック対抗の熱戦が繰り広げられた。

進路講演 9月24日、高1は河合塾の石橋佑基氏による講演を、高2はキャリアサクセスの山崎裕正氏による講演をそれぞれ聴いた。

中学体育会 9月26日、新型コロナウイルス感染症予防のため、規模を縮小して中学体育会が行われた。それぞれの競

技で兄弟学級による熱戦が繰り広げられた。

高校進学説明会 9月29日、公立中学校の先生方を対象に令和4年度高校入試の説明等を行った。

塾対象入試説明会 9月30日、塾の先生方を対象に令和4年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

街頭交通指導 10月1日から9日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。

進路学習 10月1日に中2が、10月8日に中1が、「大人と夢を語るプログラム」出前教室事業として、「未来に夢を描くことのできる次世代育成プロジェクト 金光みちっ！」と題して、玉島商工会議所等から来校した30名の講師と交流し、将来の職業を見据えた中学校時代の過ごし方について考えた。10月1日、中3は高校教務課長の話を聴き、高校生活と進路選択について考えた。また、2日には高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。

高2大祭奉仕 10月8日6・7限に金光教本部で清掃奉仕を行った。

金光学園杯小学生卓球大会 10月10

日、第21回の卓球大会が小体育館で開催された。80名の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

**Kibi Autumn Adventure** 10月17日、中2は国立吉備青少年自然の家でKibi Autumn Adventureを行った。学年の生徒を8つのチームに分け、9名の外国人講師の指導の下、それぞれがオールイングリッシュで4つのテーマの活動に臨んだ。**留学生来校** 10月19日、アジア高校生架け橋プロジェクト留学生として、インドネシアからムハンマド・ブアナムくん(愛称ゲリーくん)が来日した。2月まで高校1年に在籍する。

**性教育** 中1は10月22日にDVD「正しく知る! 二次性徴Q&A」を見て、アンケートに答え、感想文を書いた。11月5日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。中2は10月28日にかみむらウイメンズクリニック 上村茂仁先生の講演「自分の生き方を自分で判断するための性教育」を聞き、感想文を書いた。

**心の教育** 10月15日、中1は金光道晴校長から中山亀太郎先生についての話を聞き、創立記念式を前にして金光学園の

精神と歴史を学んだ。

**中学・高校入試模擬テスト** 10月24日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、10月30日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生(希望者)を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに令和4年度入試についての説明を行った。

**金光教本部散策** 10月26日、中1は金光教本部会堂広前に参拝し、教祖奥城、教団墓地、初代校長領徳碑を巡拝した。

**読書会** 高2は10月29日に、高1は11月5日に、中2は11月9日に、中1は11月22日にそれぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて意見交換を行った。

**人権教育** 中3は10月2日にEテレ「ハートネットTV」を見て、感想文を書いた。高1は10月29日にオンラインで長島愛生園歴史館、学芸員 田村朋久氏によるハンセン病の歴史、園の成り立ちや差別等に関する現状についての講演を聞き、感想文を書いた。

**教科担当者会議** 中1から中3まで、

日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。**ロードレース** 11月10日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

**創立127年記念式** 11月12日、創立127年の記念式がオンライン形式で挙行された。生徒代表 兒山恵和くんの所願表明は大変すばらしく、後輩に向けて大変な元気を与えた。式典後、東京2020パラリンピック卓球競技日本代表 井上全悠氏の記念講演が行われた。「金光学園と歩んだ東京パラリンピックへの道」という演題の講演は、中学・高校時代からパラリンピック出場までの様々な経験を通して、夢を叶えるために必要な努力について学ぶ機会になった。今後の生活に大きな示唆を与えていただいた。

**ほつま祭代替行事** 中1は11月13日に、小体育館を会場に「Egory」ほつま Festival☆中1SP」と題して、文化部によるステージ発表や活動紹介、各クラスによるほつま祭展示テーマの発表、学年全体レクリエーションを行った。中2

は11月19日に、金光公民館を会場に学年集会という位置づけで、各クラスが演劇やプレゼン、ダンスや合唱を披露した。

**1日旅行** 11月22日、中3は修学旅行の代替行事として1日旅行を実施した。総合学習の授業でクラスごとに訪問先や内容について企画し、蒜山や尾道、みろくの里などで有意義な1日を過ごした。**探究Ⅱ校内発表会** 11月24日に理系が物理、生物、天文の3つのゼミで研究した成果について、25日に文系がグローバル、地域学、歴史の3つのゼミで研究した成果について、それぞれスライド発表を行った。

**お祝い** 服部和人先生には岡山県私学協会功労者表彰を受賞され、お慶び申し上げます。

**お悔やみ** 松本蓮太郎先生の御祖母には9月2日にご逝去、森下美穂先生の義理の御尊父には9月9日にご逝去、有馬佳澄先生の御尊父には10月6日にご逝去、戸田洋平先生の御祖母には11月1日にご逝去、事務職員 楠葉尚子氏の御祖母には11月16日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。



中2 学年集会



# 教室の窓から

ある朝、中学校の教室に入った時の「おはよう！」に返してくれる生徒たちの「おはようございます！」、当たり前のことだと思えますが、「何て気持ちの良い朝になるのだろうか！」と感じる瞬間です。

金光学園にお世話になるようになって17年。初めての中学校の学年団です。当初は戸惑いまみれ、不安しかなかったです。それが今では生徒達からとんでもないパワーと勇気を貰っています。保健、体育、すべての授業でパワーをくれる中学生。負けてはならんと授業をすると、毎時間のどが大変なことになります。この年齢になって何度声変わりをすればよいのか、私の声もさらに成長し、皆様にご迷惑をお掛けす

ることになっていきます。大変申し訳ありません。

しかし、考えてみれば生徒の気持ちに伝える、その授業に生徒も応える。それが当たり前のこと。それが一方通行になるからお互い楽しさがなくなるのかもしれない。高校生になるにつれ、だんだんと恥ずかしさや様々な事情により声が出なくなる。しかし、本当に『世のお役に立てる人材』を育てるとい意味では、高校生こそ声を出し、反応し、行動できるようにアプローチしなくてはならないと思っています。中学生だからできる、ではなく金光学園の生徒だからこそできるという雰囲気になるように自分の行動を変えていきたいと感じています。

## 編集後記

2学期に4つの学年で読書会の助言者を務めた。その内の3学年とは日常的な関わりがなく、打ち合わせをした司会者を除けば面識もない。

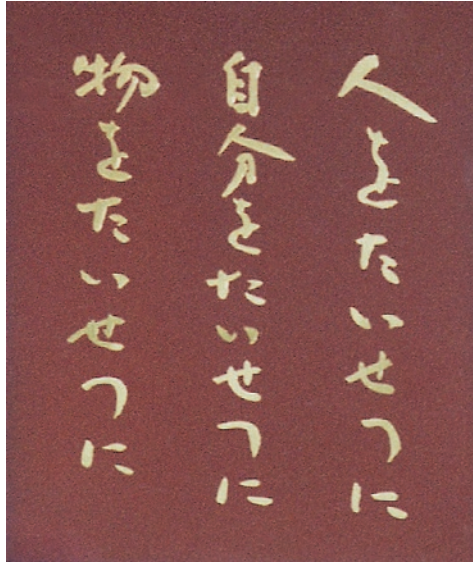
そこで、本の内容について討議をする前に質問を投げ掛けることにした。誰もが一度は耳にしたことのある、あの「明日地球が滅びるとしたら、今晩何を食べるか？」である。目論見通り、高価な料理や食べたことのない食材、家族の手料理など様々な答えが出て、場の雰囲気はすいぶん和んだ。理由を尋ねたことで、それぞれの個性にもいくらか触れられたように思う。

他愛のない問いが相手の輪郭を描き出す瞬間が好きだ。最後の晩餐以上にお勧めなのは「好きな映画ベスト3」。容易く答えてもらえる割に、その人の嗜好や考え方が色濃く表れるのがよい。場合によっては人生の一端が垣間見えることさえある。よかつたら、年末年始のひとときにお試しあれ。

令和3年12月20日印刷  
12月24日発行

編集者 金光学園やつなみ保護者会  
やつなみ編集部  
印刷所 倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一  
玉島活版所  
発行所 浅口市金光町占見新田一三五〇  
金光学園内  
金光学園やつなみ保護者会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....  
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)